

2 0 1 9 年 度 事 業 報 告

2019 年度事業概況

社会や産業は新しいテクノロジーによって急激に変わりつつあり、デジタルトランスフォーメーションによって生活やビジネスに変革がもたらされている。また、地球環境においては海洋プラスチックごみ問題に象徴される環境破壊への関心が高まり、頻発する自然災害も深刻化している。このような変化の中、日本全国に広がる印刷産業においては既存のビジネスプロセスにとらわれない革新的なビジネスモデルも生まれてきており、企業の在り方を見直し進化することで印刷産業は社会から求められる役割をさらに担うことができると考えている。

このような社会の転換期に対応するため、2019 年度も日本印刷産業連合会では経営方針であるグランドデザインと国連の提唱する SDGs の考え方を基本とし、事業計画を立案し活動を展開した。

重点テーマの主な活動としては、「地方創生」では、全国の印刷会社がビジネスパートナーとして地域活性化に関わり貢献できるよう、新たなビジネスモデルを業界で共有し水平展開する目的で「じゃばにうむ 2020 印刷産業の地方創生事業事例発表会」を実施した。今後、印刷会社が地域の中小企業のデジタルトランスフォーメーションの活用支援事業を担っていくための基礎とすることも意図した。

「女性活躍推進」については、女性リーダーのネットワークの基礎づくりを進めるとともに、ダイバーシティ・マネジメントの促進のためアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）などの重要課題を取りあげ定例会議や講演会を実施した。

「地球環境」への配慮に関しては、グリーンプリンティング認定制度を核として印刷産業全体で環境負荷低減を図るため、当該認定制度の発足以来初めて大手印刷会社がこの制度に加わりサプライチェーン全体で活動を開始した年度となった。

今年の主要な事項としては、2019 年度は 4 年に一度の「印刷文化典」の年であり、「9 月印刷の月」式典を例年より拡大し、日印産連表彰、第 18 回印刷産業環境優良工場表彰、G P 環境大賞表彰、さらには小山薫堂 P R 大使によるトークセッションと「印刷と私」エッセイ作文コンテスト表彰を実施した。

8 月に開催された第 45 回技能五輪国際大会（ロシア連邦カザン）においては、印刷職種の日本代表選手の強化訓練と大会参加を支援し、6 位敢闘賞の入賞を果たした。

本年度の国際活動については、W P C F 2019 世界印刷会議（ロンドン）、F A P G A 2019 アジア印刷会議（マニラ）、W P C F 2020 世界印刷会議（ムンバイ）に加え、オーストラリア・ナショナル・プリント・アワード（シドニー）、グレゴール・カレンダー・アワード（シュツットガルト）に出席した。

2020 年に入って新型コロナウイルス感染拡大の影響で、日本印刷産業連合会が主催する委員会、部会、コンテストなどの多くの行事が中止・延期・変更となり、第 4 回理事会は創設以来はじめての書面開催となり、書面決議によって 2020 年度の計画と予算が承認された。対応策としては、会員 10 団体と連携し経産省などの行政からの情報をもとに印刷業界の実情に合わせ、感染拡大を防ぐための働き方の変更や労働衛生の改善、受注減による資金不足を補う国の資金繰り支援の申請（セーフティネット保障 5 号）などの具体的な対策を進めた。

このように、様々な社会変化、度重なる自然災害、ウイルス感染による被害など印刷産業に与える影響が生じ拡大する中、日本印刷産業連合会は 2019 年度事業計画を基に環境変化に適応することに努め、印刷産業が持続的に社会に貢献できるよう事業を推進した。

I. 事業活動

I 常設委員会活動 ／ 顕彰委員会

業界基盤の整備および体質強化を図るための常設委員会活動は、本年も5委員会を編成した。また、今年度新たに設置した「SDGs推進プロジェクト」では、「地方創生」「女性活躍推進」「地球環境」の3つのテーマを軸に、各常設委員会と連携を取りながら推進した。2019年度は「印刷文化典」にあたり、顕彰委員会では、印刷文化賞の授与など印刷産業の活性化につながる顕彰制度を目指した活動を行った。

1 ステアリング・コミッティ（運営委員会）

【1】概要

SDGsの考え方を基本に「グランドデザイン」を事業方針として、会員10団体の会長および常設委員会委員長らをメンバーに、各委員会および認定事業の活動における諸課題の検討を行った。また今年度から専務理事連絡会を同時開催とし、10団体からの状況報告とタイムリーな情報の共有を同時に行った（第1回のみ別途開催）。

委員会での主な議案（検討事項）としては、通常議案となる「事業報告・決算報告」「事業計画・収支予算」「印刷文化典・新年交歓会等の主要行事」「日印産連表彰・印刷環境優良工場表彰・G P環境大賞」等に加えて、日印産連が対応すべき新たな事案として、「原材料費の価格高騰への対応」「台風19号の被害への対応」「新型コロナウイルス感染症への対応」等が検討された。

2018年来の用紙代の大幅値上げ・原材料費や物流費の高騰に対しては、セーフティネット保証5号の指定業種への申請を8月提出に向けて第1回ステアリング・コミッティで検討したが、すべての団体からは賛同を得られなかったため申請を見送った。

消費税率が10月に引き上げられ景気の落ち込みが懸念されるなか、台風19号が10月12日に上陸し、関東・甲信・東北地方に甚大な被害を与えた。第3回ステアリング・コミッティにおいて10団体から情報を集約し、その内容を経産省へ報告した。特に阿武隈川の氾濫により2メートルの浸水被害を受けた郡山中央工業団地においては、全印工連やジャグラ、全日本シールなどの団体から複数の印刷工場の浸水被害の報告があった。また、豪雨によるがけ崩れのため中央自動車道が長期間不通になった影響で、甲信地方の印刷会社では資材受け入れや納品に大きな支障が出ていることを経産省へ報告した。

新型コロナウイルス感染症は、2020年1月中旬に日本国内で最初の感染者が出て以降、世界的に大きな打撃を与えている。感染予防の対策として、大人数での会議を避けるために3月11日に予定されていた第5回のステ・コミは書面による開催に変更し、専務理事連絡会のみ開催した。会議では10団体の状況と今後の対応について意見交換を行った結果、2020年4月からのセーフティネット保証5号の指定業種に追加申請することとなった。更に3月18日に実施される予定だった第4回理事会も、開催案内を出したのち、日印産連としては初めての書面決議による開催へ変更した。

印刷産業の持続可能な発展に向けた日印産連の取り組みとしては、SDGsの考え方を基本として3つのテーマ（「地方創生」「女性活躍推進」「地球環境」）を定め、各常設委員会と連携して活動した（第5回専務理事連絡会で報告）。また経産省の「令和元年度戦略的基盤技術高度化・連携支援事業」については、経産省商務情報政策局コンテンツ産業課の富田課長補佐が第4回専務理事連絡会に出席して趣旨を説明。11～12月に実施したアンケート結果を基に10団体が出席して「印刷産業の持続可能な発展に向けた検討会」が開催され（3月26日）報告書が作成された。次年度には、具体的な活動につなげていく。

委 員 会 名	開催回数	実 施 内 容
ステアリング・コミッティ (運営委員会)	3 回	＊平成 30 年度 事業報告並びに決算報告 ＊日印産連表彰 / 印刷産業環境優良工場表彰 ＊GP 環境大賞等表彰 ＊2019 年印刷文化典 / 2020 年 新年交歓会 ＊2020 年度 日印産連 主要行事日程 ＊2020 年度 事業計画並びに予算収支
① 10 団体専務理事連絡会	5 回	

《本委員会開催日》

第 1 回 2019 年 5 月 16 日 (木) 於：日本印刷産業連合会 201 会議室
 第 2 回 2019 年 7 月 31 日 (水) 於：日本印刷産業連合会 202・203 会議室
 第 3 回 2019 年 10 月 16 日 (水) 於：日本印刷産業連合会 202・203 会議室
 第 4 回 (専務理事連絡会) 2019 年 12 月 11 日 (水) 於：日本印刷産業連合会 801 会議室
 第 5 回 (専務理事連絡会) 2020 年 3 月 11 日 (水) 於：日本印刷産業連合会 801 会議室

【2】委 員 名 簿

ステアリング・コミッティ(運営委員会) (計16名)

(敬称略、◎ は委員長)

連合会役職	所 属 団 体		氏 名	会 社 名
	団体名	役 職		
◎副会長	印 刷 工 業 会	副会長	浅野 健	(株)金羊社
常任理事	印 刷 工 業 会	副会長	堆 誠一郎	宝印刷(株)
常任理事(新任)	印 刷 工 業 会	副会長	佐藤 裕芳	(株)千代田グラビヤ
副会長	全 印 工 連	会 長	臼田 真人	(株)アドピア
常任理事	全 印 工 連	副会長	作道 孝行	作道印刷(株)
常任理事	全 印 工 連	副会長	細井 俊男	新日本印刷(株)
常任理事	全 印 工 連	副会長	滝澤 光正	滝澤新聞印刷(株)
副会長	フォーム工連	会 長	櫻井 醜	トッパン・フォームズ(株)
常任理事	ジ ャ グ ラ	会 長	中村 耀	N S 印刷製本(株)
常任理事	全 日 本 製 本	会 長	田中 真文	(株)田中紙工
常任理事	G C J	会 長	田村 壽孝	(株)東京ニュース
常任理事	全日本シール	会 長	田中 祐	山王テクノーツ(株)
常任理事	全国グラビア	会 長	田口 薫	大日本パックエージ(株)
常任理事(新任)	全日本スクリーン	会 長	内藤 正和	内藤プロセス(株)
常任理事	全 日 本 光 沢	会 長	鶴田 和也	宏和樹脂工業(株)
価値創出委員会 委員長			(滝澤 光正)	
企業行動委員会 //			(堆 誠一郎)	
地球環境委員会 //			(田口 薫)	
広報委員会 //	印 刷 工 業 会	理 事	岩岡 正哲	岩岡印刷工業(株)
顕彰委員会 //			(浅野 健)	

【3】主 な 実 施 内 容

ステアリング・コミッティにおける「議案 (検討事項)」および「報告事項」は次の通り。

＊第 4・5 回のステアリング・コミッティは、専務理事連絡会のみ会議を開催。

■ 第1回

1. 平成30年度 事業報告並びに決算報告（案）の件
2. 2019年度 日印産連表彰の推薦（案）の件
3. 報告事項
 - (1) JPC 表彰式について
 - (2) 第17回印刷産業環境優良工場表彰の応募／選考状況について
 - (3) 第3回「印刷と私」エッセイ・作文コンテストについて
 - (4) 平成30年度4月／都道府県別会員企業数一覧
 - (5) 経産省「原材料費の価格高騰による影響を受けている業種調査」について

■ 第2回

*新メンバー（印刷工業会／佐藤副会長、全日本スクリーンデジタル／内藤会長・宮坂専務理事、GCJ／井上専務理事、光沢／吉田専務理事）のご紹介

1. 2019年度 日印産連表彰の件
2. 第18回 印刷産業環境優良工場表彰の件
3. GP 環境大賞等表彰の件
4. 2019年「印刷文化典」（記念式典・懇親会）の件
5. 報告事項
 - (1) ドキュメンタリー映画「つつんで、ひらいて」について
 - (2) 日印産連会員10団体加盟事業者を対象とした「情報セキュリティ・個人情報保護に関するアンケート」実施について
 - (3) 第45回技能五輪カザン大会の状況について

■ 第3回

1. 台風19号の被害状況について
2. 9月印刷の月「印刷文化典」開催結果の件
3. 2020年度 日印産連/会員10団体主要行事日程（案）の件
4. 2020年度 ステアリング・コミッティ／専務理事連絡会 年間日程（案）の件
5. 「2020年 新年交歓会」開催概要(案)の件
6. 報告事項
 - (1) GP 特別認定制度創設の件
 - (2) 「第19回印刷産業環境優良工場表彰」の見直し、検討事項の件
 - (3) 第45回技能五輪国際大会（カザン）結果報告
 - (4) 「じゃばにうむ 2020ー地方創生事業事例発表会ー」開催の件
 - (5) 女性活躍推進部会 拡大版「WAIGAYA2019」開催の件
 - (6) 「第4回女性活躍推進セミナー」開催について
 - (7) シドニー出張報告と海外印刷業界団体との連携の件
7. 書面報告事項
 - (1) 環境自主行動計画 2018年度の結果報告と今後の取り組みの件
 - (2) 「VOC 排出抑制セミナー」開催の件
 - (3) 「印刷人育成オープンセミナー2019」実施報告
 - (4) 「JPC2019」受賞作品展示の件
 - (5) 第53回造本装幀コンクール受賞作品展示の件

■ 第4回（ステ・コミは中止、専務理事連絡会のみ実施）

1. 「印刷産業における取引環境実態調査」「台風19号被害の状況報告」について（経産省コンテンツ産業課・富田課長補佐出席）
2. 2020年度日印産連主要行事日程（確定）の件
3. 報告事項
 - (1) 大日本印刷・凸版印刷のGP 認定取得について
 - (2) じゃばにうむ 2020～印刷産業の地方創生事業事例発表会～開催
 - (3) 技能五輪「印刷」職種イベント開催の件
 - (4) 第19回環境優良工場表彰応募（過去受賞工場によるパネルディスカッション含む）
 - (5) 労働安全衛生に関するアンケート（含む、胆管がんに関する新聞記事）
 - (6) 第4回女性活躍推進セミナー開催について
 - (7) ドキュメンタリー映画「つつんで、ひらいて」12月14日公開
4. 会員団体概況報告

5. 「安全道場 VR」について凸版印刷から説明

■ 第5回（ステ・コミは書面開催、専務理事連絡会のみ実施）

1. 会員団体概況報告（新型コロナウイルス感染症の影響と対応について）

2. 報告事項

（1）2020年度 事業計画並びに収支予算（案）

（2）年5日の年次有給休暇の取得義務化等に関する就業規則変更

（3）SDGsの今年度の取り組みについて

①地方創生に関わる事業推進

②女性活躍推進に関わる活動

③地球環境問題への取り組み

④グリーンプリンティング認定制度推進における取り組み

（4）主催コンクールについて

（5）2020年・第19回環境優良工場表彰について

2 SDGs 推進プロジェクト

【1】概要

SDGsは、2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標であり、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っている。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なもので、日本としても内閣総理大臣を本部長とするSDGs推進本部が設置された。

日本政府は実施指針として、①あらゆる人々の活躍の推進 ②健康・長寿の達成 ③成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション ④持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備 ⑤省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会 ⑥生物多様性、森林、海洋等の環境の保全⑦平和と安全・安心社会の実現 ⑧SDGs実施推進の体制と手段を掲げた。

これらの指針は、日印産連の進めているグランドデザインに基づくテーマとも深く関係するものが多い。特に「地方創生」（SDGsゴール11「住み続けられるまちづくりを」）は、一昨年加入した内閣府が推進する「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」を活用し、全国の印刷企業の活動を支援している。「ダイバーシティ」（SDGsゴール10「人や国の不平等をなくそう」）については、女性活躍推進施策として印刷業界で働く女性のネットワークづくりを支援している。「地球環境」（SDGsゴール12「つくる責任つかう責任」）については、これまでの活動に加え、海洋プラスチックごみ問題にも着手した。本プロジェクトはこの3本の柱を軸に常設委員会と連携をとりながら推進している。また各委員会、各部会の活動テーマをSDGsの考えに紐づけ、横断的に推進するための課題、対応を検討している。

【2】具体的活動

① 昨年度の「SDGs検討プロジェクト」を格上げし、今年度は「SDGs推進プロジェクト」を新たに設置。特に「地方創生に関わる事業推進」「女性活躍推進に関わる活動」「地球環境問題への取り組み」の3本の柱を軸に常設委員会と連携し活動した。

② 「地方創生に関わる事業推進」

印刷産業が取り組む地方創生・地域活性化などに関わる事業の成功事例を集約し、全国各地の会員会社による事例発表会を開催した。

③ 「女性活躍推進に関わる活動」

印刷産業において女性活躍推進、ダイバーシティ・マネジメントに取り組む企業が少ない中、印刷産業に働く女性リーダーのネットワークの基礎づくりを目的に、イベントや講演会の開催を実施した。

- ④ 「地球環境問題への取り組み」
「地球温暖化防止 (CO2 排出量削減)」「産業廃棄物最終処分量削減 (循環型社会形成)」「大気汚染防止 (VOC 排出量削減)」の取組とともに、容器包装リサイクル法に対応した 3R の推進や世界的な問題となっている「海洋プラスチックごみ問題」に対応した。
- ⑤ 環境に配慮したグリーンプリンティング (GP) 認定制度を推進するため、グリーン基準各項目と SDGs との紐づけを行い、GP 工場交流会などで説明するとともに、周知リーフレットを作成し、GP 工場やクライアントなどに広く配布した。
- ⑥ 外務省主催の「第 3 回ジャパン SDGs アワード」に昨年に引き続き応募した。
- ⑦ 雑誌や業界新聞等に「日印産連における SDGs の取り組み」の取材を受け掲載された。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD

SDGs 目標・ターゲットと日本印刷産業連合会の取り組み

2019年度、日印産連は国連の提唱するSDGsの考え方を基本としテーマを定め、SDGs推進プロジェクトと常設委員会が連携し活動した。「地方創生に関わる事業推進」「女性活躍推進に関わる活動」「地球環境問題への取り組み」「グリーンプリンティング認定制度推進における取り組み」が主要なテーマであり、それぞれのSDGsの目標とターゲットは次のとおりである。

目標	ターゲット	地方創生	女性活躍	地球環境	GP
3 3. すべての人に健康と福祉を	3.9 2030年までに、有害化学物質、ならびに大気、水質および土壌の汚染による死亡および病気の件数を大幅に減少させる。			○	○
5 5. ジェンダー平等を実現しよう	5.1 あらゆる場所におけるすべての女性および女子に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。		○		
	5.5 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参加および平等なリーダーシップの機会を確保する。		○		
6 6. 安全な水とトイレを世界中に	6.3 2030年までに、汚染の減少、有害な化学物質や物質の投棄削減と最小限の排出、未処理の下水の割合半減、およびリサイクルと安全な再利用を世界全体で大幅に増加させることにより、水質を改善する。			○	○
7 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。			○	○
	7.3 2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。			○	○
8 8. 働きがいも 経済成長も	8.3 生産活動や適切な雇用創出、起業、創造性、およびイノベーションを支援する開発重視型の政策を促進するとともに、金融サービスへのアクセス改善などを通じて中小零細企業の設立や成長を奨励する。	○			
	8.4 2030年までに、世界の消費と生産における資源効率を漸進的に改善させ、先進国主導の下、持続可能な消費と生産に関する10年計画枠組みに従い、経済成長と環境悪化の分断を図る。				○
	8.5 2030年までに、若者や障害者を含むすべての男性および女性の、完全かつ生産的な雇用およびディーセント・ワーク、ならびに同一労働同一賃金を達成する。	○			
	8.9 2030年までに、雇用創出、地元の文化・製品の販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。	○			
10 10. 人や国の不平等をなくそう	10.3 差別的な法律、政策、および慣行の撤廃、ならびに適切な関連法規、政策、行動の促進などを通じて、機会均等を確保し、成果の不平等を是正する。		○		
11 11. 住み続けられるまちづくりを	11.4 世界の文化遺産および自然遺産の保全・開発制限取り組みを強化する。	○			
	11.6 2030年までに、大気質、自治体などによる廃棄物管理への特別な配慮などを通じて、都市部の一人当たり環境影響を軽減する。	○		○	○
	11.a 各国・地球規模の開発計画の強化を通じて、経済、社会、環境面における都市部、都市周辺部、および農村部間の良好なつながりを支援する。	○			
12 12. つくる責任 つかう責任	12.4 2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じて化学物質やすべての廃棄物の環境に配慮した管理を達成し、大気、水、土壌への排出を大幅に削減することにより、ヒトの健康や環境への悪影響を最小限に留める。			○	○
	12.5 2030年までに、予防、削減、リサイクル、および再利用(リユース)により廃棄物の排出量を大幅に削減する。			○	○
	12.7 国内の政策や優先事項に従って持続可能な公共調達の慣行を促進する。			○	○
13 13. 気候変動に具体的な対策を	13.3 気候変動の緩和、適応、影響軽減、および早期警告に関する教育、啓発、人的能力および制度機能を改善する。			○	○
14 14. 海の豊かさを守ろう	14.1 2025年までに、陸上活動による海洋堆積物や富栄養化をはじめ、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に減少させる。			○	○
15 15. 陸の豊かさを守ろう	15.1 2020年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地、および乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系およびそれらのサービスの保全、回復、および持続可能な利用を確保する。			○	○
	15.2 2020年までに、あらゆる種類の森林の持続可能な管理の実施を促進し、森林破壊を阻止し、劣化した森林を回復し、世界全体で植林と森林再生を大幅に増加させる。			○	○

【1】概 要

印刷産業の価値創造に資する情報交流・情報提供・発信・共有・教育・研修等を促進することを目標に活動した。

- ・地域連携情報交流サイト<じゃばにうむ>を基盤とした地方創生支援事業として、また内閣府地方創生推進事務局が主幹する「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」への参画を契機とした取り組みとして、2020年2月10日に「じゃばにうむ 2020 - 印刷産業の地方創生事業事例発表会 -」を開催し、印刷産業が取り組んだ地方創生・地域活性化の好事例の水平展開を行った。
- ・市場動向や最新技術動向の情報収集と情報発信
- ・知的財産権（著作権、地域ブランド戦略等）の調査研究、情報交流および啓蒙活動の推進
- ・印刷業界の事業継承に係る経営課題の検討、特に後継者育成のための啓蒙活動として「印刷人育成オープンセミナー」を引き続き実施した。また、技能五輪国際大会に向けて日本代表選手の強化訓練を実施し、若手印刷人の育成を図った。

委 員 会 名	開催回数	実 施 内 容
価値創出委員会	3 回	＊価値創造に資する情報提供、事業ニーズ調査研究 ＊地方創生支援事業の具体化検討等、企画提案活動推進 ＊各部会活動報告、市場拡大に向けた固有技術調査研究、技能五輪国際大会に係る実施計画検討、事業承継における人材育成教育の検討
① 市場動向調査部会	2 回	・印刷関連市場調査分析と市場動向の新たな情報発信の在り方に関わる企画検討の実施
② 知的財産部会	9 回	・知的財産権問題の調査研究、周知啓発活動の実施
③ 技術部会	2 回	・「スマートファクトリー化」をテーマに情報共有を実施
■デジタルプレス推進協議会	1 回	・デジタルプレス動向調査実施、報告会は中止
■印刷用語集改訂協議会	2 回	・アクセスの状況などの実績を把握
・グラビア分科会		・グラビア関連の不良現象の画像を追加登録
■技能五輪	2 回	・第 45 回技能五輪国際大会が 2019 年 8 月ロシア連邦・カザンで開催され、湯地龍也選手(凸版印刷㈱)は 6 位敢闘賞を受賞
・技能五輪強化委員会	2 回	・強化訓練の計画立案、進捗把握と訓練方法の指示 ・国際大会の総括と次回に向けての課題の整理
・技能五輪強化訓練	4 回	・外部(鈴木美術印刷、亜細亜印刷)での訓練実施
・技能五輪イベント開催	1 回	・技能五輪の周知を目的としたイベントを開催
■価値創出WG	4 回	・地方創生事業事例発表会の企画検討、発表企業・事例内容確認、決定と発表会の実施 ・印刷人育成セミナーの講義内容・講師の決定とセミナーの実施

《本委員会開催日》

第1回 2019年 7月31日(水) 於：日本印刷産業連合会 会議室
 第2回 2019年 12月19日(木) 於：日本印刷産業連合会 会議室
 第3回 2020年 3月04日(水) ※書面開催

【2】委員名簿

価値創出委員会（計 14 名）

（敬称略、◎は委員長、○は部会長）

連合会役職	所 属 団 体		氏 名	会 社 名
	団 体 名	役 職 名		
常任理事	印 刷 工 業 会	専務理事	藁科 忠	
◎常任理事	全 印 工 連	副 会 長	滝澤 光正	滝澤新聞印刷(株)
理事	全 印 工 連	常務理事	橋本 唱市	文唱堂印刷(株)
(新任)	フ ォ ー ム 工 連	常任理事	大橋 輝臣	共同印刷(株)
	ジ ャ グ ラ	専務理事	沖 敬三	勝美印刷(株)
	全 日 本 製 本	理 事	渡邊 博之	(株)博勝堂
(新任)	G C J	副 会 長	錦山 慎太郎	(株)共栄メディア
(新任)	全 日 本 シ ー ル	副 会 長	堀木 淳一	(有)竹内紙器製作所
	全 国 グ ラ ビ ア	専務理事	村田 英雄	
	全日本スクリーン・デジタル	副 会 長	宮本 武紀	(株)太陽堂成晃社
(新任)	全 日 本 光 沢	専務理事	吉田 純一	(株)吉田製作所
○市場動向調査部会長(新任)	印 刷 工 業 会	副 会 長	佐藤 裕芳	(株)千代田グラビヤ
○知的財産部会長	印 刷 工 業 会		萩原 恒昭	凸版印刷(株)
○理事／技術部会長	印 刷 工 業 会	理 事	服部 克彦	瀬味証券印刷(株)

【3】主な実施内容

1. 価値創出委員会ワーキンググループ

(1)「じゃぱにうむ 2020 - 印刷産業の地方創生事業事例発表会 - 」

印刷産業が取り組む地方創生・地域活性化などに関わる事業の成功事例を集約し、その情報共有とそれによるビジネス機会の創出を狙い、全国各地の印刷会社 6 社による事例発表会を開催した。

- 1) 開催日時 : 2020 年 2 月 10 日 (月) 14:00 ~ 17:40
- 2) 会 場 : 日本印刷会館 2 F 大会議室
- 3) 開催狙い : ①印刷産業における地方創生事業の情報共有と参入機会の検討
②地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム活用による地域連携事業推進
- 4) 主 催 : 日本印刷産業連合会価値創出委員会、同 SDGs 推進プロジェクト
- 5) 後 援 : 内閣府地方創生推進室、地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム、株式会社日本政策投資銀行
- 6) 概 要 : ①開会挨拶：価値創出委員会委員長 滝澤 光正氏
②基調講演：株式会社日本政策投資銀行
執行役員 産業調査本部 副本部長 竹ヶ原啓介氏
③事例発表：全国の印刷会社 6 社による事例発表（各社 20 分）
④パネルディスカッション：上記発表 6 社とモデレータによるディスカッション
- 7) 聴講者数 : 107 名

8) 発表企業・事業概要・活動エリア：



※地図上のポイントは各印刷会社等の活動拠点並びに活動エリアを示しています。

9) アンケート結果：・回収率 54.2%

- ・印刷会社、印刷産業関連団体 72.3%
- ・ビジネス機会創出に役立つ・参考になる 93.1%



開会挨拶 滝澤委員長



基調講演
日本政策投資銀行 竹ヶ原副本部長



事例発表① (株)みやもと 宮本社長



事例発表③ ホウユウ(株)田中社長



事例発表⑥ (有)ケイズ上村専務取締役



パネルディスカッション

(2) 「印刷人育成オープンセミナー2019」(日本プリンティングアカデミーとの共催)

- 1) 開催日時・会場：2019年10月09日(水) 10:00～13:30 於: 日本印刷産業連合会
2019年10月10日(木) 9:00～12:00 於: 日本印刷産業連合会

- 2) 狙い：デジタル化の進展とともに印刷産業の新たな価値創出と次代を担うための事業承継を含めた経営戦略等の研究・考察を行い、経営幹部候補となるべき有望な人材の育成を行うことを目的とする。
- 3) 対象者：IoT、AI、ビッグデータ等のデジタル化へのシフトといった急激な経営環境の変化に対応するため、現経営者のみならず次期経営者、取締役、管理職層を対象者とする。
- 4) 講義内容・講師：
- Session 1 デジタルプレス設備活用に向けたマーケティングとデジタルワークフローの構築
(フュージョン(株) 花井会長、(株)バリューマシンインターナショナル 宮本副社長)
- Session 2 中小企業支援施策の戦略的有効活用
(東京都中小企業振興公社)
- Session 3 「働き方改革」、次なるハードルへの準備はできていますか？
(社会保険労務士 小島 信一氏)
- Session 4 エッ！「オリンピック」ってワード使っちゃダメなの!? 知財動向最新版
(日印産連知的財産部会 部会長 凸版印刷(株) 萩原顧問)
- 5) 受講者数とアンケート結果

実施 プログラム	受講 人数	アンケート調査結果		
		大変役に立つ・役に立つ	また自分で受講したい、社内関係部門に受講させたい	講師・資料・運営に満足、まあ満足
Sessin 1	32	100.0%	82.5%	96.2%
Sessin 2	21	82.5%	64.7%	76.5%
Sessin 3	26	91.7%	100.0%	95.8%
Sessin 4	36	93.3%	80.0%	83.3%



フュージョン(株) 花井会長



社会保険労務士 小島信一氏



日印産連知財部会 萩原部会長

2. 市場動向調査部会

印刷産業に関するデータおよび関連資機材データの収集(経済産業省行政当局発表資料・各種業界団体などの関連データ)ならびに分析を行う。

1) 隔月誌「印刷産業関連データ」の発行

- ・第222号(2019年5月31日)～第227号(2020年3月31日)隔月で計6号発行
- ・有償会員(会員企業10,395円、非会員企業20,789円)36ヶ所、無償会員44ヶ所に配送

2) 月次更新「Index Data」データのWebサイト掲載

- ・上記「印刷産業関連データ」の前半部分データ編の元となる各種データを更新
- ・2019年4月末日～2020年3月末日 計12回更新
- ・日印産連Web上に掲載、冊子有償会員限定で提供(冊子送付ラベルに記載したP/Wで閲覧可能)
- ・上記データの概況のみ一般閲覧可能なページに掲載

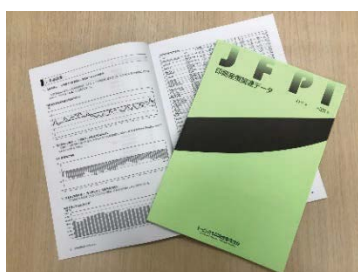
3) 「マーケティング・データ・ブック」(MDB)の発行

- ・印刷業、関連資機材及び印刷業の得意先市場等の動向を経済産業省「生産動態統計調査」、「工業統計表」、その他各種団体等が発表するデータを元に、年度推移をグラフ化して掲載
- ・年度に1回、年報として発行、2020年版は2月28日にVol.18として発行
- ・「印刷産業関連データ」の有償会員・無償会員、及びMDBのみの購読者に配送

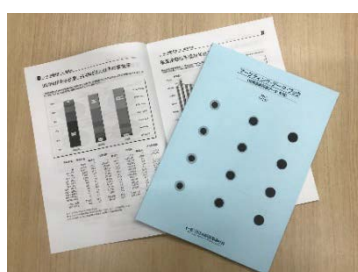
4) 「動態調査」の実施

- ・従業員100人以下の印刷会社に対して3ヶ月毎の生産金額、及び各四半期末における景況感を調査
- ・調査結果をまとめ、日印産連Webサイトに掲載し、調査に回答した企業限定で結果を提供(閲覧用P/Wをメールで配信)、他に、独立行政法人労働政策研究・研修機構が実施しているBLM(ビジネス・レーバー・モニター)調査にデータ提供
- ・2019年10月～12月の調査では379社に調査票を送付、53社から回答

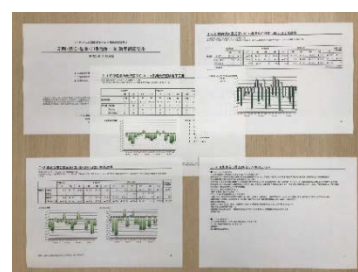
年度・調査期間	2018年度				2019年度		
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
調査対象企業	392	388	385	383	382	382	379
回答企業数	66	60	65	61	54	55	53
回答率(%)	18.4%	15.5%	16.9%	15.9%	14.1%	14.4%	14.0%



印刷産業関連データ



マーケティング・データ・ブック



動態調査

5) 隔月誌「印刷産業関連データ」の発行及び月次更新「Index Data」データのWebサイト掲載の見直し

- ・掲載項目・掲載方法の見直しを行うとともに講読会員制を改め、2020年4月度より、日印産連Web上から誰でも閲覧できるPDF形式の「印刷産業 Monthly Report (月報)」と「印刷産業 Quarterly Report (四半期報)」を掲載する。

3. 知的財産部会

タイムリーなテーマの抽出や業界としての課題の調査研究に取り組み、解決に向けた提案活動を進めている。知的財産権に関するトラブル・疑問や注意点に関する討議の成果を機関誌「JFPI REPORT」等へ掲載し印刷の日常業務に役立てている。また政府・行政省庁の知財関連意見募集へ積極的に対応。

1) 日印産連機関誌「JFPI REPORT」及び各団体機関誌による知的財産権問題の啓蒙活動

「こんなときどうする!?知的財産アドバイス」連載記事内容の検討、原稿制作

Vol.168 (2019年7月号) オリンピック表現を使用したDM等に関する注意点

Vol.169 (2019年10月号) 音楽に関する著作権の注意点

Vol.170 (2020年1月号) 他人のWebページへのリンクを張る際の注意点

Vol.171 (2020年4月号) 利用したい著作物の権利者が分からない場合の注意点



Vol.170 (2020 年 1 月号)

Vol.171 (2020 年 4 月号)

2) 文化庁、特許庁等の政府関連の知的財産権動向、及び著作権関連動向の情報共有

- ・毎回の知的財産部会で文化庁、特許庁関連の法案動向などを中心に報告

3) 政府、行政官庁への対応(パブリックコメントによる意見表明、提言、要請事項とりまとめ)

- ・文化庁より次の2件のパブリックコメントの募集があり、それぞれにコメントを送付した。
 - ①侵害コンテンツのダウンロードに違法化に関するパブリックコメント (2019年10月29日送付)
 - ②「写り込みに係る権利制限規定の拡充に関する中間まとめ」に関するパブリックコメント (2019年11月27日送付)

4) 冊子「こんなときどうする?! 知的財産アドバイス」第2巻の発行

- ・2019 年 8 月 31 日発行
- ・A4判正寸、表紙4P(4+1 色)、本文 72P(1+1 色)、無線綴じ
- ・日印産連Webサイトから一般向けに販売
販売価格:一般向け税込み 3,300 円、会員向け税込み 2,200 円
2020 年 2 月 28 日現在、47 冊(41,660 円) 販売済み。
2019 年 4 月以後第1巻も 7 冊(18,520 円) 販売。

・冊子構成

- 第1部 印刷業務に関わる知的財産の全体像
⇒著作権等の基本的な知識、考え方を掲載
- 第2部 「こんなときどうする?! 知的財産アドバイス」
⇒JFPI REPORT への連載記事を分類して掲載



4. 技術部会

最新の技術動向の把握、新しいテクノロジー活用の支援を目的に、今年度は「スマートファクトリー化」をテーマに、「つながる」「見える化」「自動化」といった観点で情報を収集し共有を図った。

1) デジタルプレス推進協議会

2010 年から実施しているアンケート調査を協議会で項目を検討し、今年度も継続して実施した。(アンケート発送数: 713 社、回答数: 213 社、回答率: 29.9%)
ただし、従来 3 月に開催していた「デジタル印刷の現状と展望」に関する調査報告会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、開催を取り止め、アンケート調査の結果をまとめた報告書はホームページ上で公開した。

2) 印刷用語集改訂協議会

グラビア分科会で不良現象の用語のビジュアル化に関して検討。東洋インキ(株)の協力で画像を入手し、画像の追加と新規用語の追加登録を実施した。(新規: 7、修正: 7)

3) 技能五輪国際大会

中央職業能力開発協会(JAVADA)と連携し、2019年8月にロシア連邦・カザンで開催された第45回技能五輪国際大会の「印刷」職種 日本代表選手の選手強化のための訓練支援を実施した。また、2020年に開催する日本代表選手選考会に向けて、技能五輪の周知を目的としたイベントを開催した。

- ・技能五輪強化委員会

選手強化のための訓練計画を事前に検討、訓練期間中は強化訓練の進捗を把握し、その後の訓練方法に関して指示を行い選手強化に努めた。また、国際大会後には、国際大会の総括と次回に向けての課題の整理を実施した。

- ・技能五輪強化訓練

外部での訓練を計画し、実施した。

鈴木美術印刷（大阪）：3回、亜細亜印刷（長野）：1回

- ・第45回 技能五輪国際大会(ロシア連邦・カザン)：2019年8月22日～27日

62の国・地域から、56の職種に1,348名の選手が参加。

「印刷」職種には、15の国・地域が参加して競い、金メダルがオーストリア、ロシア、銅メダルがスイスで、日本の湯地龍也選手（凸版印刷㈱）は6位敢闘賞受賞という結果になった。配点が、前回大会から大きく変更され、オフセット印刷 60%→40%、デジタル印刷 10%→30%とデジタル印刷の比率が高まり、今後の選手強化のポイント。



亜細亜印刷での強化訓練



開会式



オフセット印刷競技

- ・技能五輪イベント開催

次回、第46回 技能五輪国際大会は2021年9月に中国・上海で開催が予定されており、2020年に

「印刷」職種の日本代表選手の選考会を開催する。これに向けて、技能五輪の周知を目的としたイベントを2020年2月12日に東京都立中央・城北職業能力開発センターで開催した。

内容は、技能五輪国際大会、日本代表選手選考会の説明、湯地龍也選手（凸版印刷㈱）による4色オフセット印刷競技デモンストレーション、技能五輪国内プチ競技会で、5社13名（内 競技会参加者4社7名）が参加した。



デモンストレーション

4 企業行動委員会

【1】概 要

企業行動委員会は、本年度においても印刷産業が SDGs の 17 の目標を視野に社会やステークホルダーからの要請・期待に対して、的確に応え行動できるよう、以下の 4 つの部会を編成し、それぞれのテーマに沿った活動を積極的に展開した。

情報セキュリティ部会においては、2019 年 8 月に個人情報保護委員会が就職情報サイトを運営する企業に対して、サービスを利用する学生の同意を得ずして内定辞退率の予測を顧客企業に販売したとして是正勧告を行ったことや、12 月に同委員会が 2020 年の個人情報保護法の改正に向けて「個人情報保護法のいわゆる 3 年ごとの見直し制度改正大綱」を公表したことを認識しつつ、また、EU（欧州連合）が 2018 年に施行した EU 一般データ保護規則（GDPR）や、個人情報保護に関する米国の新ルールの動向なども視野に入れ、さらには高度化する標的型攻撃メールを中心としたサイバー攻撃が増加する現状を踏まえて、部会活動を推進した。

法令制度部会では、2019 年 6 月に 2020 年度の税制改正要望の取りまとめに向け、10 団体経由で各会員企業に税制要望等を依頼、9 月 10 日に部会で内容を検討し、会計士のチェックを経て 9 月 18 日に経済産業省コンテンツ産業課に「2020 年税制改正要望書」を提出した。また「消費税の軽減税率制度説明会」、「今から始める！事業承継の進め方」と題したセミナーを 2 部制で 7 月 5 日に日本印刷会館 2 階会議室において開催した。

女性活躍推進部会の活動は 5 年目を迎えた。10 団体からの委員出席による定例会議を 3 回開催し、印刷工業会及び全印工連の女性活躍推進およびダイバーシティへの取組み等の活動報告を行うとともに、計画した施策の実施内容について検討を行った。また、新たな試みとして部会委員 2 名による自社紹介を行った。具体的施策としては、2018 年度に企画し 3 回連続して実施した女性リーダーのネットワークづくり施策の WA I G A Y A を、2019 年 12 月 12 日に「WA I G A Y A 2 0 1 9」として開催、前年度にできたネットワークをより強固なものとした。また、第四回女性活躍推進セミナー「皆が働きやすい職場の実現に向けて～アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）をなくす方法！！」を 2020 年 2 月 3 日に日本印刷会館 2 階の大会議室で開催した。

労働安全衛生部会ではワーキンググループ（座長：寺田勝昭氏）を設置し、「VOC 警報器の普及拡大」を重点テーマとして活動を進めた他、「化学物質管理の徹底」に取り組んだ。「VOC 警報器の普及拡大」では、導入工場の見学会を関東（池田印刷（株）、京浜島工場）と関西（（株）研文社、尼崎工場）で行った他、経済産業省・関東経済産業局と共催で実施した「VOC 排出抑制セミナー」でも導入工場の活用事例を紹介した。

2 月に行われたリョービ M H I（株）の新春ショーに「VOC 警報器」に関する展示ブースを設け、来場した印刷会社に紹介するとともに、リョービ M H I（株）に今後の販売について協力を要請した。

化学物質管理の徹底を図るべく、2012 年 11 月に発行したパンフレット「印刷事業所における化学物質による健康障害防止対策のポイント」の理解度や実施状況を改めて確認するアンケートを 1 月より実施しており、2020 年度にまとめとフォローを行う。また、今後の労安活動の進め方について、中災防・大阪労働衛生総合センター所長の圓藤吟史氏に協力を要請した。

委 員 会 名 (分科会)	開催回数	実 施 内 容
企業行動委員会	2 回	＊個人情報保護、情報セキュリティへの対応 ＊税制・下請法・規制改革等への対応 ＊女性の活躍推進に繋がる各種施策・情報への対応 ＊安全衛生・リスクマネジメントへの対応 ＊安全衛生・労働衛生への対応
① 情報セキュリティ部会 ■個人情報保護WG	2 回 9 回	・「個人情報保護・情報セキュリティに関するアンケート」の実施 ・「消費税の軽減税率制度説明会」「今から始める！事業承継の進め方」セミナーを2部制で開催 ・「W A I G A Y A 2 0 1 9」および第四回女性活躍推進セミナーの開催 ・化学物質の取り扱いに関するアンケート調査 ・V O C 警報器の普及拡大に向けた取組、導入企業の見学会実施、セミナーでの紹介、印刷機メーカーへの販売協力依頼
② 法令制度部会	1 回	
③ 女性活躍推進部会	3 回	
④ 労働安全衛生部会 ■労働安全衛生WG ■V O C 警報器普及拡大WG	2 回 8 回	

※2 回目の企業行動委員会・情報セキュリティ部会は、新型コロナウイルス感染防止のため書面開催とした。

《本委員会開催日》

第 1 回 2019 年 9 月 5 日(木) 於： 日本印刷産業連合会 会議室

第 2 回 2020 年 3 月 4 日(火) 於： ※書面開催

【2】委 員 名 簿

企業行動委員会 (計 15 名)

(敬称略、◎ は委員長、○は部会長)

連合会役職名	所 属 団 体		氏 名	会 社 名
	団体名	役職名		
◎常任理事	印刷工業会	副 会 長	堆 誠一郎	宝印刷(株)
○情報セキュリティ部会長	印刷工業会		成澤 晃一	凸版印刷(株)
○法令制度部会長	印刷工業会		関根 克彦	(株)D N P アカウンティングサービス
○女性活躍推進部会長	印刷工業会		澤田 千津子	凸版印刷(株)
○労働安全衛生部会長	印刷工業会		木村 健二	共同印刷(株)
	印刷工業会	監 事	酒井 隆	(株)リーブルテック
	全印工連	常 務 理 事	三島 秀夫	六三印刷(株)
	フォーム工連	業務委員長	大平 直木	日本フォーム印刷工業連合会
	ジャグラ	専 務 理 事	沖 敬三	日本グラフィックサービス工業会
	全日本製本	理 事	大熊 茂樹	(株)大熊製本
	G C J	常 務 理 事	竹ノ上 蔵造	(株)第一製版
	全日本シール		今村 めぐみ	日生印刷(株)
	全国グラビア	副 会 長	石井 純	(株)多連堂
	全日本スクリーン	専 務 理 事	宮坂 次郎	(株)新興グランド社
	全日本光沢	副 会 長	小原 隆	(株)大和紙工業

【3】主な実施内容

1. 情報セキュリティ部会

2019年度、情報セキュリティ部会は日印産連グランドデザインの考え方に基づく以下の3項目を基本方針とした2018年度の活動を踏襲した形で部会活動を行った。

- 1) 個人情報保護を中核とした情報セキュリティの徹底により、事故防止はもとより、印刷事業者や印刷業界全体の信頼を獲得し、事業発展に寄与する。
- 2) 情報セキュリティ部会以下、個人情報保護WG・プライバシーマーク審査センター・審査員・事務局の連携により、印刷事業者にとっての有益な成果を挙げる。
- 3) 原稿や製品の取扱に係る情報セキュリティについては当面、事業者ごとの取組みに委ねることとし、サイバーセキュリティについては、公開情報の積極的な活用（情報共有化）を図る。

2019年度は就職情報サイトを運営する企業が、サービスを利用する学生の同意を得ずに内定辞退率の予測を顧客企業に販売したことに対して、個人情報保護委員会が是正勧告を行った。このことは保護と活用のバランスのなかで、過剰な反応に進んだ場合、個人データの利活用を委縮させることにつながる問題を含んでいる。また、12月13日、個人情報保護委員会が2020年の個人情報保護法の改正に向けて「個人情報保護法のいわゆる3年ごとの見直し制度改正大綱」を公表した。EU（欧州連合）が2018年に施行したEU一般データ保護規則（GDPR）や、個人情報保護に関する米国の新ルールの動向なども視野に入れ、さらには高度化する標的型攻撃メールを中心としたサイバー攻撃が増加する現状を踏まえて、部会活動を推進した。

2019年度の主な実績としては、環境の変化が速いなか印刷事業者の個人情報保護や利活用および情報セキュリティに係る真のニーズを探るため、8月～11月に日印産連会員10団体加盟企業にアンケートを実施した。また、令和元年度第1回個人情報保護研究セミナー「世界的規模で変貌する個人情報保護とサイバーセキュリティに向き合うために」を7月に開催した。

1) 部会、個人情報保護ワーキンググループの活動

2019年9月2日に、委員交代による委員1名を新たに迎え、第1回情報セキュリティ部会を開催した。最初に、2019年度情報セキュリティ部会の活動計画について振り返りを行った。続いて、「個人情報保護・情報セキュリティに関するアンケート」の実施内容とワーキンググループの後半期における取組について、ワーキンググループの上田座長から説明が行われた。さらにプライバシーマーク審査基準の見直し・変更について事務局が説明し、最後に7月30日に開催された第1回情報保護研究セミナーの実施報告と内容についてのポイント解説が部会長より行われた。個人情報保護ワーキンググループは、4月から1月まで9回開催した。9回開催のうち7回はアンケートの実施および実施後の対応について検討を行った。12月にワーキンググループ委員が小沢孝訓氏から七五三満孝氏に交代した。

2) 印刷事業者の「個人情報保護意識」のさらなる高揚と実践への取り組み

- ①『世界的規模で変貌する個人情報保護とサイバーセキュリティに向き合うために』と題して、情報セキュリティ部会主催の第1回個人情報保護研究セミナーを2019年7月に開催し80名が参加した。



講師の名和利男氏



- ② Pマーク取得印刷事業者の内部監査員養成を目的とした「PMS内部監査員セミナー」を、新 JIS 規格対応のテキスト及び副教材を作成して東京で 2 回、地方都市で 10 回開催した。全部で 73 社 172 名の参加があった。



主任審査員による講義風景



岡山会場での模擬監査の様子

3) 「個人情報保護に関する情報」の公開

「プライバシーマーク審査センターHP」において継続して、個人情報保護に関する諸情報、個人情報保護委員会および（一財）日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）等からの発信情報などを掲載した。

4) 2018 年に個人情報保護 WG が制作した「印刷産業のための個人情報保護の手引き（JIS Q 15001:2017 附属書 A(規定) 準拠）」および、構築支援ツール班制作の「構築支援ツール 参考資料集／JIS Q 15001:2017 準拠」の頒布・活用促進

印刷産業における個人情報保護ガイドライン（平成 30 年 3 月に新 JIS 規格準拠に改定）の解説書として「印刷産業のための個人情報保護の手引き」を、併せて「構築支援ツール 参考資料集」を発刊、事業者の PMS 構築・運用に活用していただくことを目的に日印産連HPでの広報、またプライバシーマーク審査での訪問時に審査員から活用方法について継続して説明を行った。

<有料頒布実績>

- ・「印刷産業のための個人情報保護の手引き」：105 部
 - ・「構築支援ツール 参考資料集」：104 部
 - ・「印刷現場における個人情報保護ワンポイントレッスン」：4 部
 - ・「マイナンバー取扱ハンドブック」：5 部
- [H31. 4. 1～R2. 1. 31 頒布分]

5) 広報活動

日印産連機関誌「J F P I レポート」への出稿

- ・ J F P I レポート 2019 年 4 月号・7 月号・10 月号、2020 年 1 月号に、新 JIS 対応の個人情報保護内部監査員セミナー及び令和元年度 第 1 回個人情報保護研究セミナーの開催報告、平成 30 年度の個人情報に関する事故報告等に関する記事を掲載し情報提供を行った。

2. 法令制度部会

1) 経済産業省に「2020 年度税制改正要望書」を提出

2019 年 6 月に 2020 年度の税制改正要望に向けた税制要望等のとりまとめを 10 団体経由で各会員企業に依頼した。その後 2019 年 9 月 10 日に部会を開催し、会計士のチェックを経て同月 18 日に 10 団体と連名で経産省コンテンツ産業課に「2020 年度税制改正要望書」を提出した。要望事項は、前年からの継続要望が 25 項目、新規要望が 2 項目の合計 27 項目

で、法人税実効税率の更なる引き下げ、中小企業における軽減税率の特例の延長、外形標準課税の導入拡大の反対、消費税の仕入税額控除制度（95%ルール）の復活等を要望した。

2020 年度税制改正のトピックスは、持続的な経済成長の実現に向け、オープンイノベーションの促進及び投資や賃上げを促すための税制上の措置を講ずるとともに、連結納税制度の抜本的な見直しを行っている。さらに、経済社会の構造変化を踏まえ、全てのひとり親家庭の子どもに対する公平な税制を実現するとともに、NISA（少額投資非課税）制度の見直しを行っている。

2) 2 部制でのセミナー開催

法令制度部会は、7 月 5 日（金）に日本印刷会館 2 階会議室にて 2 部制でのセミナーを開催した。第 1 部では、「消費税の軽減税率制度説明会」として、2019 年 10 月 1 日より消費税率が 10%に引き上げられると同時に、軽減税率制度が実施されるのに合わせた説明会を開催した。

内容としては、①制度の概要、②適格請求書等保存方式とは、③消費税申告書の記載方法の変更点など、飲食料品の売上がない事業者でも知っておくべきポイントに焦点を当て、講師は東京国税局 消費税課の岸岡氏にお願いした。

第 2 部では、「今から始める！事業承継の進め方」セミナーとして、経営者なら誰もがいつかは考える事業承継をテーマとしたセミナーを開催した。

内容としては、具体的な事例を交えながら事業承継の基礎知識、事業承継を進める上での考え方、また講師である東京都中小企業振興公社のその他支援制度（経営相談、販路拡大、助成金他）について説明した。参加者は経理部門の責任者及び実務担当者をはじめ、会社経営者が約 25 名であった。



「消費税の軽減税率制度説明会」会場



「今から始める！事業承継の進め方」会場

3. 女性活躍推進部会

女性活躍推進法の施行、それにとまなう自主行動計画の策定・公表・各社の取組み、また両立支援制度の充実や働き方改革が進みつつあり、日本における女性活躍推進が進展しているかに見えていたが、2020 年 2 月 3 日に開催された日印産連第四回女性活躍推進セミナーの配付資料「世界の中の日本の国際比較」（女性活躍の状況）では、①女性就業率：22 位/43 ヶ国、②ジェンダーギャップ・男女格差：121 位/153 ヶ国、③女性議員の割合：165 位/193 ヶ国、④女性中堅企業経営幹部：日本（1 位/ワースト 10）、⑤ガラスの天井：28 位/29 ヶ国という現状が示された。日本において、女性活躍推進、ダイバーシティ・マネジメントの進捗はどうか、進めるために本当に取り組むべき事は何かを探る必要があるように思われる。

印刷産業において女性活躍推進、ダイバーシティ・マネジメントに取り組む企業はまだ少ない。このような環境において、日印産連 女性活躍推進部会は 2015 年度の部会設立時に策定した以下の活動方針に基づき、2019 年度も継続して活動を行った。

【活動方針】

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 女性の活躍推進に関する国及び会員団体の情報等を 10 団体で共有する2. 女性の活躍推進に向け経営者の意識の変革を行う3. 印刷産業に働く女性の連携を強化する4. 印刷産業における女性の活躍推進に関する活動情報を発信する |
|--|

【具体的活動実績】

1) 定例会議の開催

10 団体からの委員出席による定例会議を 3 回開催し、印刷工業会及び全印工連の女性活躍推進及びダイバーシティへの取り組み等の活動報告を中心に、各団体の女性活躍推進への取り組み状況の共有化をはかった。また、活動方針にある「印刷産業に働く女性の連携を強化する」を具現化する企画「WA I G A Y A」の実施方法等について検討を行った。さらに活動方針「女性の活躍推進に向けて経営者の意識の変革を行う」に該当する企画、「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」に関するセミナーの実施内容について議論を行った。新しい試みとして、参加委員の自社紹介を実施。各社の独創的な商品の紹介があり、新たな気づきを得る機会となった。

- ・ 第 1 回（メンバー 2 名変更、1 名新規参加あり）定例会議（6/21）
 - ① 女性活躍推進部会 2019 年度具体的活動内容について
 - ② 印刷工業会、全印工連の女性活躍（ダイバーシティ）関連の令和元年度計画について（他 8 団体の女性活躍推進に関する取り組みの報告（該当する報告テーマがある場合））
 - ③ 女性活躍推進部会拡大版「WA I G A Y A 2 0 1 9」の実施について
 - ④ 日印産連 女性活躍推進部会主催「第四回女性活躍推進セミナー」開催について
- ・ 第 2 回定例会議（11/1）
 - ① 印刷工業会、全印工連の女性活躍（ダイバーシティ）推進の進捗について
 - ② 「WA I G A Y A 2 0 1 9」（12/12）の開催要領について
 - ③ 第四回女性活躍推進セミナー（2/3）の開催に向けて
 - ④ 部会委員の自社紹介
 - ・ セントラル印刷株式会社（河野委員）
 - ・ 株式会社 精工（大枝委員）
- ・ 第 3 回定例会議（2/19）
 - ① 女性活躍推進部会の 2019 年度活動実績の確認
 - ② 2020 年度活動計画について

2) 日印産連 女性活躍推進部会 拡大版プログラム「WA I G A Y A 2 0 1 9」を開催

- ① 目的：イ) 印刷業界の女性リーダーのネットワークの基礎づくり
 - ロ) 女性リーダーの力（アイデア）で印刷業界を魅力ある業界にする
 - ハ) 印刷業界で女性が活躍し、女性リーダーを継続的に輩出するための環境づくり
- ② 方針：a. 2018 年度 3 回開催の WA I G A Y A で出来たネットワークをより活発なものにする。なお、2019 年度は、参加者の負担を考慮して 1 回に凝縮した形で実施する。
b. 女性ネットワーキングの心地良さを実感してもらうことで、自社（団体）において女性をはじめとする誰もが働きやすい環境をつくる旗振り役として、リーダーシップを発揮してもらえるキッカケをつくる。
c. 堅苦しくなく楽しい雰囲気の中で“ワイワイ、ガヤガヤ”と意見交換し交流を深める。

③開催日時：2019年12月12日（木）14:00～17:30（W A I G A Y A）

18:00～20:00（交流会）

④プログラム内容：『W A I G A Y A 2 0 1 9－女性起業家による講話と「自分でできる大人の化粧教室」体験－』

大手化粧品会社を退社し、全国展開の「自分でできる大人の化粧教室」事業を立ち上げた女性起業家による講演「私が会社員を辞め、起業した理由」（30分）。併せて、主宰する化粧教室で実際に行われている基本レクチャー（30分）とメイクレッスン（90分）を体験。参加者が女性ならではの講座を全員で受講することにより連帯感の醸成をはかる。

⑤講師：浅香 純子氏（株式会社 S a y 取締役ブランドマネージャー）

⑥参加者：10団体から女性メンバー25名（印刷工業会：7名、全印工連：5名、フォーム工連：3名、J a G r a：1名（当日欠席）、全日本製本：2名、G C J：1名、全日本シール：1名、全国グラビア：1名、スクリーン・デジタル：2名、光沢化工紙：2名）、日印産連他6名



基本レクチャーの様子



4回目のW A I G A Y Aで交流を深めて

3）第四回女性活躍推進セミナー『皆が働きやすい職場の実現に向けて～アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）をなくす方法！！』の開催

①目的：女性活躍推進及びダイバーシティ・マネジメントの促進

（第三回女性活躍推進セミナーのアンケート結果や、部会の定例会議の議論のなかで、女性活躍推進等の概論については理解が進んだので、リアルなテーマについて取り上げて欲しいとの意見が多く出た。これを受けて女性活躍推進やダイバーシティ・マネジメントの阻害要因の一つとされるアンコンシャス・バイアスについて解説するセミナーを開催することになった。）

②対象：日印産連に加盟する印刷関連10団体会員企業の経営者及び従業員他

③開催日時：2020年2月3日（月）14:00～16:30

④プログラム内容：

I 「ダイバーシティ・マネジメントー“ガラスの天井”を打ち破るー」

講師：（一社）日本印刷産業連合会 副会長
櫻井 醜氏（トッパンフォームズ 相談役）

II 「ダイバーシティの推進を阻むアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）とは」

講師：アパショナータ, Inc. 代表&コンサルタント パク・スックチャ氏

⑤会場：日本印刷会館2階大会議室（定員：80名）

⑥参加者数：90名



講師の櫻井 醜氏



講師のパク・スックチャ氏



セミナー会場風景

4) 広報活動

「J F P I R E P O R T」No. 170 (2020 年 1 月号) に、記事「女性リーダーのネットワークをより強固に女性活躍推進部会拡大版「WAIGAYA 2019」を開催」を掲載。また「J F P I R E P O R T」No. 171 (2020 年 4 月号) に、記事「日印産連 第四回女性活躍推進セミナー「皆が働きやすい職場の実現に向けて～アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）をなくす方法！！」」を掲載した。同様の内容が日本印刷新聞に掲載された。この他、「労働の科学」11 月号及び「印刷ジャーナル」1 月 1 日号 (Web 版) に日印産連の女性活躍推進に関わる内容が取り上げられた。

4. 労働安全衛生部会

(1) 労働安全衛生部会の活動

(部会開催：2019.8/29、2020.2/14 2 回開催)

本年度は、専門委員を含む 6 名から成るワーキンググループ (座長：寺田勝昭氏) を設置し「VOC 警報器の普及拡大」を重点テーマとして進めた。また、2012 年 11 月に発行したパンフレットの記載内容の理解度や実施状況を把握するためアンケート調査を進めている。

- ・ 2019 年度労働安全衛生部会 活動方針に基づく活動の実施
- ・ 2020 年度労働安全衛生部会 活動方針 (案) 策定

(2) 2019 年度 労働安全衛生活動

1) 労働安全衛生に関するアンケート調査

2012 年に発生した胆管がん問題を教訓として、今一度化学物質管理の徹底を図るため、2012 年 11 月に発行したパンフレット「印刷事業所における化学物質による健康障害防止対策のポイント」に記載した内容の理解度や実施状況を把握すべく、傘下の 10 団体に所属する全ての企業を対象にアンケートを実施している。今後アンケート結果を集約し、問題点や課題に関する対応を進めるとともに、より理解しやすいパンフレットの簡易版を作成し、幅広く周知することで健康障害の撲滅に努める。

2) 「VOC 警報器」の普及拡大 (「VOC 警報器普及拡大 WG」は 8 回開催)

オフセット印刷作業者の VOC 個人ばく露低減のため、あらかじめ決められた VOC 気中濃度を超えると警報を発し、保護具の利用や、洗浄剤使用量の抑制、職場の換気、作業フローの

見直しを促す「VOC 警報器」を新コスモス電機（株）と共同で開発し、普及拡大を進めている（2020 年 3 月現在導入台数 計 692 台）。

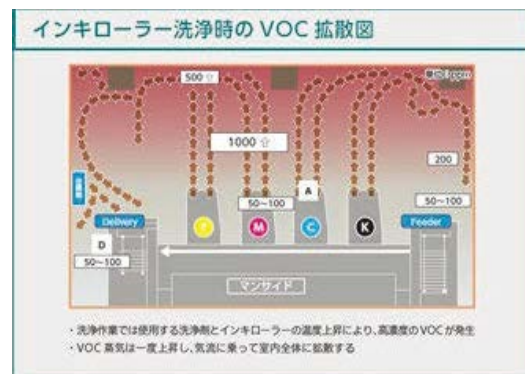
VOC 警報器を既に導入し活用している会社の事例を紹介し、未設置の会社に導入を促すことを目的として、2019 年 10 月 16 日に池田印刷（株）・京浜島工場の見学会を、同年 11 月 15 日に（株）研文社・尼崎工場の見学会を実施した。また、11 月 1 日に経済産業省・関東経済産業局と共催で開催した「VOC 排出抑制セミナー」でも導入工場の事例を紹介する等、VOC 警報器導入による効果をアピールした。2 月 19 日・20 日に開催された「リョービ MHI（株）新春ショー」に出展し、VOC 警報器に関するブースを設け、来場した印刷会社に紹介した。また、今後の販売についてリョービ MHI（株）へ協力を要請した。



10/16、池田印刷（株）、京浜島工場見学会

3) 「VOC 警報器」の展開について

日印産連会員 10 団体で、「VOC 警報器」の販売に密接に関連する団体（印刷工業会、全印工連、フォーム工連、JAGRA）を通じて販売している（販売実績 633 台）。関連団体とは定期的に状況を確認しており、連携して進めている。また組合加盟会社以外からの問合せもあり、一部は代理店販売も行っている（販売実績 59 台）。



オフセット枚葉機、VOC 拡散イメージ

4) 化学物質管理の徹底について

経済産業省・関東経済産業局と共催で 11 月 1 日に開催した「VOC 排出抑制セミナー」の冒頭で、圓藤吟史氏（中央労働災害防止協会、大阪労働衛生総合センター所長）による「印刷産業における化学物質管理の取り組み」と題した基調講演を実施し、「安全神話を疑う」「リスクアセスメントの実施手順」「注意を要する物質」「リスク低減のための対策」「ばく露の見える化」「個人ごとの対策」等について、注意すべき点等を説明していただいた。併せてオフセット印刷工場（（株）研文社、尼崎工場）とグラビア印刷工場（大日本パッケージ（株））の職場環境改善事例についても紹介した。

また、2 月 10 日に圓藤所長を訪問し、今後の労安活動について専門的な立場からアドバイス・指導していただくよう要請し、了解していただいた。



11/1、VOC 排出抑制セミナー（圓藤所長）



同左（大日本パッケージ（株））

5 地球環境委員会

【1】概 要

印刷産業が取り組むべき SDGs の重要課題として、地球環境に配慮した活動を 2019 年度も継続して実施した。低炭素社会実行計画、循環型社会形成の 2 つの自主行動計画について、フォローアップ調査を行うとともに、VOC 排出抑制についても 2019 年度も会員企業にアンケート調査を通じて取り組み状況を把握し、自主行動計画の推進状況を経済産業省並びに経団連に提出した。

1 月 22 日に経産省で開催された産業構造審議会 産業技術環境分科会 地球環境小委員会 製紙・板硝子・セメント等WGにて、今年度の「印刷業の低炭素社会実行計画」フォローアップ内容を報告した。

また、容器包装リサイクル法に対応したアンケート調査を今年度も行うとともに、容器包装に密接に関わる「海洋プラスチックごみ問題」に対しては、容リ法に関する報告会の中で経済産業省・環境省にそれぞれの取組について基調講演を実施していただいた。「海洋プラスチックごみ問題」への対応として、経済産業省主導で設立された CLOMA（クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス）に入会し、情報収集を行った。

印刷産業全体による SDGs 実現に向けた環境負荷低減をめざし、GP 認定制度を核としたサプライチェーン全体で活動するため、GP 総合認定制度を創設し、企業単位で認定制度に参加できる体制を推進した。

また、GP 認定制度を広く周知するため、GP マークを多く活用している印刷発注者（クライアント）を表彰する「GP 環境大賞」、GP マークを多く表示した GP 工場を表彰する「GP マーク普及大賞」、GP 資機材認定製品を多く登録しているメーカーを表彰する「GP 資機材環境大賞」を実施した。また放送作家の小山薫堂氏による「GPP R 大使」活動、並びに「印刷と私」エッセイ・作文コンテストの継続など、GP 制度の普及・認知活動に注力した。

委 員 会 名 (分科会)	開催回数	実 施 内 容
地球環境委員会	3 回	* 低炭素社会、循環型社会、VOC 排出抑制自主行動計画 * 容リ法への対応、海洋プラスチックごみ問題の対応 * 「印刷サービス」グリーン基準への対応 * GP 認定制度への対応 * 「印刷と私」エッセイ・作文コンテストの実施
①環境マネジメント部会	2 回	・環境保全活動の充実
■環境自主行動計画推進 WG	4 回	・低炭素社会、循環型社会、VOC 排出抑制自主行動計画
■容リ法対応 WG	2 回	・容リ法対応実態調査および取りまとめと周知活動報告会開催（経産省・環境省基調講演含む）
■古紙リサイクル対応協議会	1 回	・印刷物の脱墨評価の国際標準規格化、JIS 化対応
古紙リサイクル対応WG		
I S O / T C 1 3 0 / W G		
11 脱墨分科会		
デジタル印刷WG	1 回	・トナー方式のデジタル印刷物のリサイクル適性評価方法標準化、運用開始
■CLOMA 対応検討会		・海洋プラスチックごみ問題に関する情報収集 ・GP 認定制度の改善、推進

②グリーンプリンティング 推進部会 ■GP 資機材検討 WPJ ■GP 周知活動 WG ■GP 効果数値化検討 WG	9 回	・ GP 資機材認定基準の策定と拡充の検討 ・ GP 認定制度の業界内外への周知 ・ GP 認定工場の環境負荷低減効果の確認
	2 回	
	11 回	

《本委員会開催日》

第1回	2019年	7月11日(木)	於：日本印刷産業連合会 会議室
第2回	2019年	12月2日(月)	於：日本印刷産業連合会 会議室
第3回	2020年	3月9日(月)	※書面開催

【2】委員名簿

地球環境委員会 (計14名)

(敬称略、◎は委員長、○は部会長)

連合会役職	所属団体等		氏名	会社名
	団体名	団体役職		
◎常任理事	全国グラビア	会 長	田口 薫	大日本パッケージ(株)
○環境マネジメント部会長	印刷工業会		菅藤 純平	大日本印刷(株)
○理事／GP推進部会部会長	ジャグラー	副 会 長	菅野 潔	(株)興栄社
	印刷工業会	理 事	田畠 久義	(株)久栄社
	印刷工業会		木下 敏郎	凸版印刷(株)
	全 印 工 連	常務理事	惟村 唯博	光写真印刷(株)
	フォーム工連	理 事	朝日 健之	(株)木万屋商会
	全日本製本	理 事	藤田 裕二	藤田製本(株)
	ジャグラー	理 事	尾形 文貴	(株)みつわ
	G C J	副 会 長	田畠 義之	(株)セントラルプロフィックス
	全日本シール	常務理事	渡邊 正昭	(株)文昇堂印刷
	全国グラビア	副理事長	安永 研二	東包印刷(株)
	スクリーン・デジタル	副 会 長	近藤 浩史	(株)文化社
	全日本光沢	理 事	浅野 貴之	(株)協和テック

【3】主な実施内容

1. 環境マネジメント部会の活動 (2019.6/28,2020.2/25 計2回開催)

本年度は、環境自主行動計画推進WG、容リ法対応WG、古紙リサイクル・脱墨分科会を設置し、環境保全活動の充実を図った。

- ・2019年度環境マネジメント部会 活動方針・関連活動の実施
- ・2020年度環境マネジメント部会 事業計画(案)策定

■環境自主行動計画推進ワーキンググループ

(2019.6/19,8/28,9/18,2020.2/6 計4回開催)

1) 低炭素社会実行計画(地球温暖化防止)

低炭素社会実行計画の指標であるCO2発生量・原単位とも、2018年度の実績は従来の2020年度目標を大きく上回った。2019年度以降は毎年前年より原単位を1%改善することとした新たな目標を2019年度に設定した。

また、本計画への参加企業について、各団体の協力により新たに 20 社加わったことで、前年の 92 社から 112 社へと 22%増加し、カバー率も 1.2%から 1.5%へ上昇した。

CO₂ の排出量は基準年度である 2010 年度の 106.2 万トンに対し、2018 年度実績は 84.1 万トン（基準年度比：79.1%）となった（2020 年度の新目標 82.4 万トン以下、2020 年度の旧目標：97.5 万トン以下）。

設備更新による空調および動力関係の高効率化など事業者の省エネ努力分が大きく寄与し、2017 年度実績の 87.5 万トンを更に下回る効果を上げた。

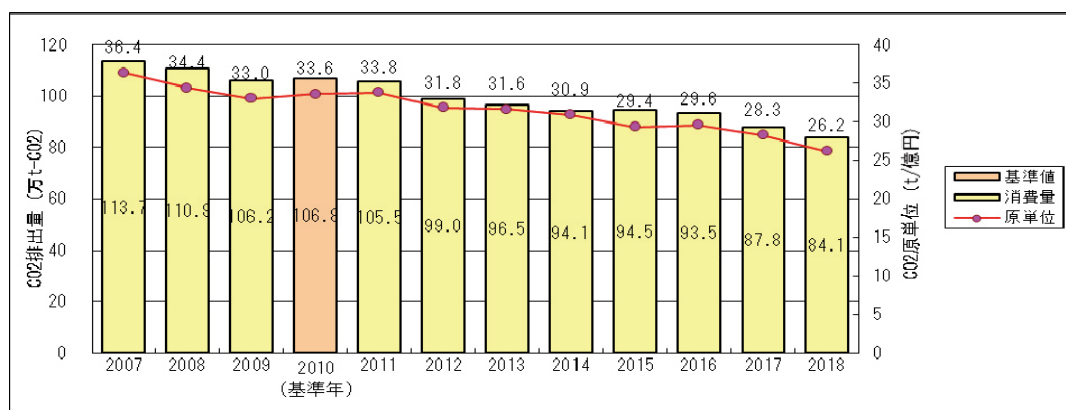
また、CO₂ の発生量を原単位（発生量／売上高…単位：トン／億円）でみると、基準年度：33.7 トン／億円に対し、18 年度実績は 26.2 トン／億円（基準年度比：77.7%）となった（2020 年度の新目標：25.7 トン／億円以下、2020 年度の旧目標：30.5 トン／億円以下）。

1/22（水）に開催された「産業構造審議会（8 業界対象）」で印刷業界の 2018 年度の取組を報告した。昨年日印産連に指摘のあった「目標設定の見直し」「カバー率の向上」についての今年度の対応とそれに対する追加の指摘はなかった。また出席した 8 名の委員から各業界に対して以下の指摘と要望があった。

- ① 各業界とも一定の成果を上げており、もっと一般の生活者にアピールすべき。
- ② 各業界の取組がSDGsの17の目標のどれに貢献しているのか、アイコンを表示してわかりやすく表現してほしい。
- ③ 自らの製造工程から発生するCO₂削減だけでなく、自らの製品やサービスが他業種や海外に貢献していることをアピールしてほしい。
- ④ 小ロット化が進む中で自らの努力でCO₂を削減することが業界の発展になる。

※次年度の報告書は、上記の指摘に対応した内容に改めるよう見直しを行う。

●固定排出係数に基づく CO₂ 排出量（電力排出係数は基準年度固定で算定）

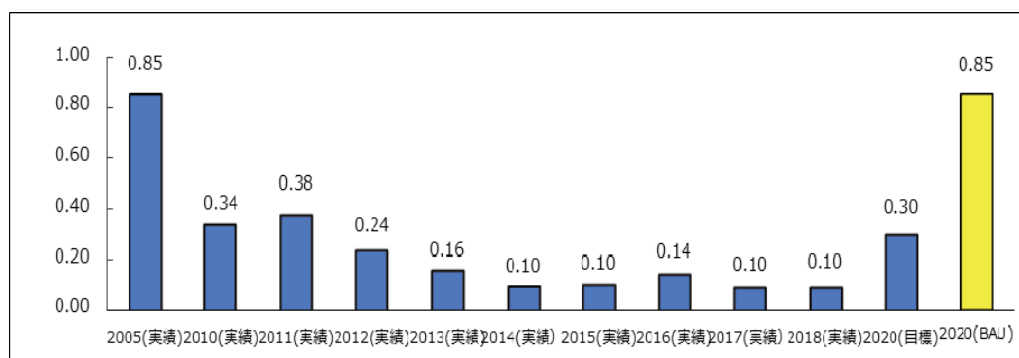


2) 循環型社会形成自主行動計画（産業廃棄物最終処分量削減）

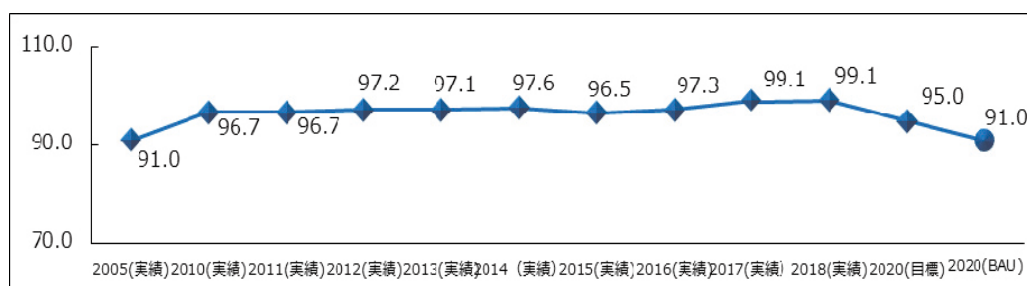
本計画は、「産業廃棄物最終処分量」と業界独自の「再資源化率」を目標指標としている。産業廃棄物最終処分量については、「2020 年を目標年度として年間 0.30 万トン以下とする」を目標としているが、2018 年度は、年間 0.10 万トンの実績となり目標を達成した。再資源化率については、同じく「2020 年度を目標年度として、再資源化率を 95.0%以上にする」を目標としているが、印刷業界独自のグリーン基準の設定、その履行等を積極的に実施し、2018 年度実績は 99.1%と目標を大きく上回った。

既に 2020 年度目標を大きく上回る成果を上げており、2021 年度以降の目標と指標について、「産業廃棄物最終処分量」および「再資源化率」目標の妥当性を検討する。また、プラスチック関連の目標は定性的な目標は既に提出しており、今後定量的な目標を検討していく。

●産業廃棄物最終処分量（単位：万トン）



●産業廃棄物再資源化率（単位：％）



3) VOC排出抑制自主行動計画（大気汚染防止）

VOC 排出量抑制については 1999 年度を基準年とし、2010 年度における排出量の 41%削減（68,100 トン）を目標としていたが、VOC 回収装置の普及等が進み、既に目標は達成している。その後 2010 年度実績を基準年（42,700 トン）として、この水準を維持することを目標として活動しているが、2018 年度の VOC 排出量は 23,600 トン（削減率 80%）で目標を大きく上回った。

また、VOC 排出率（排出量／使用量…単位：％）でみると、1999 年度：56.5％、2010 年度：23.9％、2020 年度目標：23.9％以下に対して、18 年度実績は 17.0％となり、排出率でも 2020 年度目標を達成した。3 年ごとに見直している「今後の方向性と方策」に関しては、「5 年後も直近の削減率を維持するように取り組んでいく」こととし、経済産業省に提出した。

●VOC使用量、排出量実績 単位：トン/年

年度	平成12年度	平成16年度	平成22年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
使用量	204,400	199,600	178,400	184,200	169,400	143,100	157,500	152,500	142,300
排出量	115,500	89,100	42,700	35,400	28,200	24,500	26,800	22,800	23,600
削減率	—	23%	63%	69%	76%	79%	77%	80%	80%
削減量	—	26,400	72,800	80,100	87,300	91,000	88,700	92,700	91,900
排出率	—	45%	24%	19%	17%	17%	17%	15%	17%
* 削減率、削減量は、基準年度である平成12年度比					* 排出率＝排出量÷使用量×100(%)				

■容リ法対応ワーキンググループ

(2019.9/27,2020.2/4 計 2 回開催)

紙製・プラスチック製容器の再商品化実施状況に関する調査報告

印刷産業における紙製容器包装及びプラスチック製容器包装を中心とした正確な数量等の基礎データの充実を図るべく、アンケートを実施し状況を確認している。

本年度については日印産連会員団体に加盟している印刷会社での再商品化義務量は、紙製容器 478 t（昨年比＋9%）、その他プラスチック製容器 6,752 t（昨年比＋22%）の見込みである。また、特定容器包装の製造量は、紙製容器 52 万 t（昨年比＋0.7%）、その他プラスチ

ック製容器が 27 万 t（昨年比+2.6%）と見込まれ、経年変化では微減傾向であるが、2019 年度は紙製容器、その他プラスチック製容器とも前年から微増の製造量となった。

顧客からの 3 R の問合せや指示は「軽量化・薄肉化：35 件（前年：37 件）」「簡素化：25 件（前年：21 件）」「コンパクト化：24 件（前年：14 件）」「リサイクル素材の利用：24 件（前年：20 件）」など、合計で 196 件（前年：175 件）が寄せられており、3 R への取組への関心が高まっている。また、各印刷会社で実践している 3 R に関する具体的な取組についても多くの事例が寄せられ、各社が自主的な取組を強化していることが窺える。

■古紙リサイクル・脱墨分科会

ISO/TC130/WG11 国内委員会

- ・脱墨分科会開催：10/1 計 1 回
- ・デジタル印刷ワーキンググループ開催：11/13 計 1 回

1) ISO TC130/WG11（環境）における印刷物の脱墨評価方法の国際規格化

「古紙の脱墨性評価」の ISO 化に対応して JIS 化を進めるべく、「JIS 化小委員会」を立上げ、日本製紙連合会、古紙再生促進センターと連携し取り組んでいる。製紙業界から出された JIS 化の必要性に関する資料と、評価を行うためのテストサンプルの作製並びにテスト方法の案をベースに今後の進め方を協議している。

2) トナー型デジタル印刷物のリサイクル適性評価試験方法の精度向上

トナー型デジタル印刷物のリサイクル適性評価について専用治具を作り安定性向上を進めている。評価テストを実施・確認の上、標準試験法を改訂し、2019 年度から運用を開始した。

■CLOMA 対応検討会

海洋プラスチックごみ問題への対応

地球環境の新たな課題である海洋プラスチックごみ問題に対応すべく、経済産業省主導で設立された「CLOMA（クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス）」に入会し、3 つある部会の中の「普及促進部会」に所属し、セミナー・展示会等に参加して情報収集を行った。

印刷業界から排出する廃プラの削減に取り組むべく、日本印刷産業機械工業会と連携して「フィルム洗浄装置」の開発に着手した。装置の開発・導入に関して環境省へ補助金申請を行い、2020 年度中の実用化を目指す。

2. グリーンプリンティング推進部会の活動

（2019.4/9,5/23,6/26,8/28,10/7,11/12,12/18,2020.1/29,3/4（書面開催） 計 9 回開催）

本年度は、GP 資機材検討ワーキングプロジェクト、GP 周知活動ワーキンググループ、GP 効果数値化検討ワーキンググループを設置して、グリーンプリンティング認定¹制度の具体的な活動を推進した。また、大手企業から中小企業まで印刷産業全体による SDGs 実現に向けた環境負荷低減をめざし、GP 認定制度を核としてサプライチェーン全体で活動するため、新たに GP 総合認定制度を創設し、印刷会社 5 社が GP 総合認定制度に参加し GP 認定を取得した。GP 総合認定制度は企業を対象に、環境負荷低減策を網羅的に基準化した「企業単位での GP 認定基準」に適合し、CSR 報告書等で公表していること、及び CSR 報告書等の各種数値が監査法人による第三者審査を受け保証されたものであることとした。

■GP 資機材検討 WPJ

- ・ケミカル分科会開催：5/28 計 1 回
- ・ハード・ソフト分科会開催：5/28 計 1 回

¹ グリーンプリンティング認定事業の活動状況は GP 認定事業の章（P. 47）を参照

1) ケミカル分科会

ケミカル分科会では現状の情報交換を行うとともに、洗浄剤等認定基準のうち VOC 関連項目の改定を行った。

2) ハード・ソフト分科会

デジタル印刷機の新製品等の情報交換を行った。インクジェットの VOC 定義については、国際規格との整合性を取るため、ISO/TC130/WG11 の検討結果を待つこととなった。

■GP 周知活動ワーキンググループ

開催：2019.4/15,6/10,7/16,8/1,9/17,10/7,10/28,11/25,12/11,2020.1/16,2/18 計 11 回

1) GP 環境大賞、GP マーク普及大賞、GP 資機材環境大賞の実施

GP マーク及び GP 認定制度を広く周知するため、GP マークを多く活用しているユーザーを表彰する GP 環境大賞、受注印刷製品に GP マークを多く表示した GP 工場を表彰する GP マーク普及大賞、GP 資機材認定製品を多く登録しているメーカーを資材と機材の部門に分けて表彰する GP 資機材環境大賞を実施した。受賞者は次の通り。

【2019GP 環境大賞】(4 社・団体)

NTT タウンページ㈱、大阪商工信用金庫、埼玉県議会、東京都

【2019GP 環境準大賞】(5 社・団体)

㈱ジェイアール東日本企画、東武鉄道㈱、(一社)日本自動車連盟、㈱ホンダコムテック、武蔵野大学

【2019GP マーク普及大賞】(2 社)

N T T印刷㈱、六三印刷㈱

【2019GP マーク普及準大賞】(5 社)

伊藤印刷㈱、岩岡印刷工業㈱、㈱笠間製本印刷、㈱太陽堂印刷所、㈱文伸

【2019GP 資機材環境大賞】(2 社)

資材部門：㈱日研化学研究所、機材部門：富士ゼロックス㈱

2) グリーンプリンティング PR 大使活動の継続

GP 認定制度の社会的認知度を高め、消費者にとって身近な存在としてアピールするため、小山薫堂氏に継続してグリーンプリンティング PR 大使活動をお願いした。PR

大使のアドバイスによる

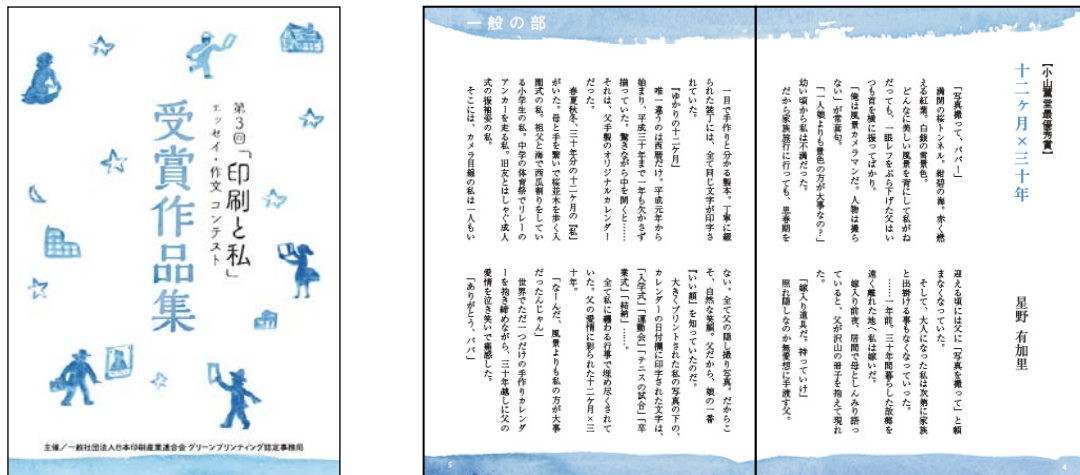
「印刷と私」エッセイ・作文コンテストを継続実施したほか、PR 大使の紹介により日本空港ビルデング㈱主催の「旅する日本語」展のポストカードに GP マークを表示した。また、「印刷文化典」において「印刷と私」エッセイ・作文コンテストの審査委員長、表彰式プレゼンター並びに鈴木杏樹氏とのトークセッションを行った。



鈴木杏樹氏(左)と小山薫堂氏(右)によるトークセッション

3) 第3回「印刷と私」エッセイ・作文コンテストの実施

GP 認定事務局が主催し、第3回「印刷と私」エッセイ・作文コンテストを実施した。小山薫堂氏を審査委員長に迎え、一般の部、小学生の部に分けて4月から7月まで募集し、今回は943作品（昨年707作品）と大幅に応募が増加した。このうち24作品を受賞作品とし表彰式を行った。また第3回「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト受賞作品集を発行した。表紙には小池アミイゴ氏のイラストレーションを去年に引き続き採用した。



第3回「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト受賞作品集

4) 2019 グリーンプリンティング認定制度表彰式／第3回「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト表彰式の実施

2019年9月13日（金）16:10～17:50、「印刷文化典」式典内（会場：ホテルニューオータニ）において、2019 グリーンプリンティング認定制度表彰式、並びに第3回「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト表彰式を実施した。小山薫堂氏と鈴木杏樹氏による「印刷と私」トークセッションの後、「印刷と私」エッセイ作文コンテスト表彰式並びに受賞者インタビュー、及びGP 環境大賞・GP マーク普及大賞・GP 資機材環境大賞の表彰式を行った。



GP 環境大賞表彰式



「印刷と私」コンテスト表彰式（小学生の部／保護者）

■GP 効果数値化検討ワーキンググループ

ワーキンググループの開催はなかったものの、GP 工場による印刷は、印刷発注者のパートナーシップとして「目標12：つくる責任、つかう責任」を中心として位置づけ、「オフセット印刷サービスグリーン基準」の各項目とSDGsの目標との紐付けを行った。またこの結果をGP 工場交流会において説明するとともに、説明・周知用リーフレットを作成し、GP 工場及びクライアントほかに広く配布した。

◆関連する部会の活動状況

(1) 2019 年度第 18 回印刷産業環境優良工場表彰

選考委員会開催：2019.7/18 計 1 回

本年度も昨年度に引続き「小規模事業所部門」を設置の上、実施した。第 1 次応募は選択式、第 2 次は記述式の審査応募とした。応募総数は 59 工場となり、この応募工場に対して審査・選考を実施後、理事会を経て経済産業省に表彰工場の申請を行い、9 月 13 日に行われた「印刷文化典 記念式典」で表彰した。



商務情報政策局長賞を受賞した(株)研文社、尼崎工場

11/19、過去受賞工場によるパネルディスカッション

(2) 2020 年度第 19 回印刷産業環境優良工場表彰

審査委員会開催：2019.10/29,11/26,2020.1/15,2/12,3/17 計 5 回

2020 年度第 19 回の実施に先立ち、応募活性化施策として、直近で会長賞・奨励賞を受賞した工場 4 社の代表者が参加した「環境優良工場表彰受賞工場による環境対応事例パネルディスカッション」を 11/19 に実施した。「環境優良工場表彰への応募動機、きっかけ」「活動のポイント」「良かったこと」「苦労したこと」「従業員の反応」「今後の展開」等について、各社の取り組み事例を話していただいた。

2020 年度も小規模事業所部門を設置し日印産連会員 10 団体と協力して実施している。第 1 次応募は選択式で、2019 年度を上回る計 54 工場（2019 年度第 18 回は 52 工場）の応募があった。この後、第 2 次応募は記述式応募票にて進める。

(3) 2019GP 環境大賞・2019GP マーク普及大賞・2019GP 資機材環境大賞

選考委員会開催：2019.7/18 計 1 回

昨年に引き続き、GP マーク表示印刷製品を多く発注したクライアントへ感謝の意を表すべく GP 環境大賞を実施するとともに、受注印刷製品に GP マークを多く表示した GP 工場を他の工場の模範として表彰する GP マーク普及大賞を実施した。また、GP 資機材認定製品を多く登録しているメーカーを表彰する GP 資機材環境大賞を実施した（受賞者は P.29 を参照）。

(4) 第 3 回「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト

「印刷と私」コンテスト審査委員会：2019.8/9 計 1 回（内容は P.30 を参照）

【1】概 要

2019 年の「9 月印刷の月」記念式典は、印刷業界に従事される方々が一堂に介して 9 月 13 日（金）に東京・紀尾井町ホテルニューオータニにて開催された。本年度は 4 年に一度の「印刷文化典」に当たる為、印刷業界の発展に長年尽力された方々に対して、印刷文化賞 3 名、印刷功労賞 14 名、印刷振興賞 22 名、特別賞 3 名 1 団体が授与され、表彰式が行われた。記念式典では第 18 回印刷産業環境優良工場表彰並びに 2019 年 GP 環境大賞表彰の他、第 3 回「印刷と私」エッセイ・作文コンテストの表彰も行われ、GP PR 大使である小山薫堂氏から受賞者への賞状の授与が為された。また、「印刷と私」をテーマとして、鈴木杏樹氏とのトークセッションも行われた。

主催 4 コンクール展では、カレンダー、カタログ、造本装幀の応募作品点数がいずれも減少となったが、特にカタログは大幅減少となった。一方 JPC では「外国人向け商品」賞を新設したことなどが奏功し、唯一応募点数の増加がみられた。また造本装幀とカレンダーは提携関係にある海外のコンテストの主催団体を通じて、日本の受賞作品が『世界で最も美しい本コンクール 2020』と『グレゴール・カレンダー・アワード』に出品されているが、それぞれのコンクールで今年も優秀な成績を収めることができた。特に造本装幀では全世界 30 数か国から 700 点以上の作品が出品される中で、日本からの出品作品は今年で 4 年連続入賞する、という快挙を成し遂げた。また、JPC（ジャパンパッケージングコンペティション）に関しては、本年度から（一社）日本包装機械工業会とも連携し、日本印刷産業連合会として JAPAN PACK 2019 を協賛し、幕張メッセで開催された展示会では、JPC2019 での入賞作品を展示、JPC 審査委員長の宮崎紀夫千葉大学名誉教授による「選ばれる理由（わけ）」と題した講演を実施した。

また大正大学の就職課からの依頼を受けて、2019 年 6 月及び 2020 年 2 月に同大学にて就職希望学生向けに印刷業界全般に関する説明会を開催し、印刷業界へ優秀な人材を招き入れる活動を行った。6 月の業界説明会では岩岡印刷工業の岩岡社長から企業が欲する人材について講演して頂き、金羊社の入社 2 年目の社員である吉田氏から印刷会社に就職を希望する学生に向けてアドバイスが為された。

委員会名	開催回数	実 施 内 容
広報委員会	2 回	＊WPCF 世界印刷会議 2019(ロンドン)、FAPGA アジア印刷会議 2019(マニラ)等への参加 ＊2019 年「9 月印刷の月／印刷文化典」記念式典・懇親会の開催 ＊主催 4 コンクールの開催 ＊技能五輪や『印刷と私』作文コンクールなどを通じた印刷業界のアピール ＊日印産連ホームページの運営 ＊機関誌「JFPI REPORT」の発行 ＊関連団体等への後援・協賛 ＊マスコミ懇談会の開催 ＊大正大学に於いて就職活動開始前学生向け全般に関する説明会

《本委員会開催日》

第 1 回	2019 年 8 月 2 日(金)	於：日本印刷産業連合会 801 会議室
第 2 回	2020 年 2 月 27 日(木)	於：日本印刷産業連合会 501 会議室

【2】委員名簿

広報委員会（計12名）

（敬称略、◎ は委員長 ○ は部会長）

連合会役職	所属団体		氏名	会社名
	団体名	団体役職		
◎	印刷工業会	理事	岩岡 正哲	岩岡印刷工業(株)
○広報・企画部会長	印刷工業会		佐々木 大輔	大日本印刷(株)
常任理事	印刷工業会	専務理事	藁科 忠	印刷工業会
	全印工連	常務理事	白橋 明夫	(株)白橋
	フォーム工連		藤本 昭彦	(株)イセトー
	ジャグラ	理事	早坂 淳	(株)ケーヨー
	全日本製本	理事	鈴木 博	鈴木製本(有)
	G C J	常務理事	西山 英徳	トキア企画(株)
	全日本シール	専務理事	片桐 敬喜	全日本シール
	全国グラビア	副会長	竹下 晋司	(株)ダイコー
	全日本スクリーン	副会長	小林 雄仁	(株)コバプロ
	全日本光沢	理事	木村 亨	旭紙化工(株)

【3】主な実施内容

（1）2019年「9月印刷の月／印刷文化典」記念式典の開催

開催概要

日時：2019年9月13日（金） 午後2時30分～午後7時

場所：ホテルニューオータニ 本館「鶴の間」

参加者：約650名

■記念式典（午後2時30分～）

- ・日印産連表彰（印刷文化賞、印刷功労賞、印刷振興賞、特別賞）
- ・第18回印刷産業環境優良工場表彰
- ・トークセッション 「印刷と私」 小山薫堂氏×鈴木杏樹氏
- ・第3回「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト表彰
- ・GP環境大賞・準大賞、GPマーク普及大賞・準大賞、GP資機材環境大賞表彰

■懇親会（午後6時～）



印刷文化賞表彰



日印産連表彰式

(2) WPCF2019 (ロンドン)世界印刷会議への参加

WPCF 世界印刷会議がロンドンにて開催され(2019 年 5 月 23～25 日) 日本のほか、米、欧 (Intergraf)、韓、印、豪、ネパール、インドネシアの 8 か国が参加した。各国の印刷業界が抱える課題に関する発表が行われ、ホスト国の英国からはイギリスの印刷連合会である BPIF が英国の印刷業界の課題を解決すべく行っている活動の紹介を行った。帰国後、出張報告会を 7 月 4 日 (水) に印刷会館 2F にて開催した。資料は日印産連ホームページに掲載。



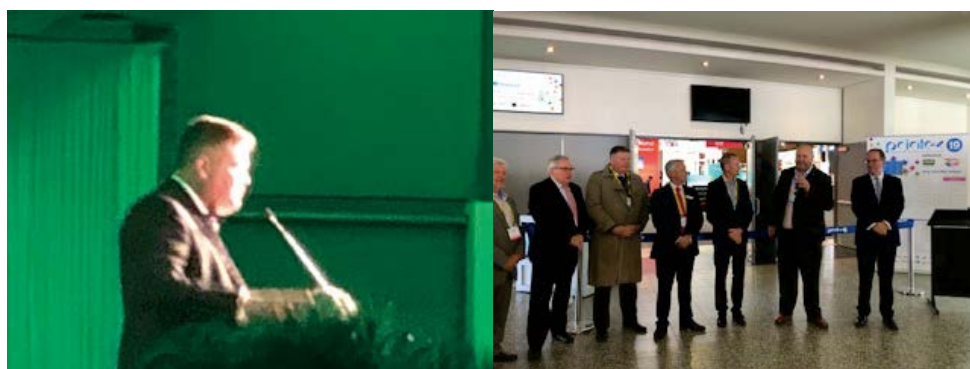
(3) FAPGA2019 アジア印刷会議への参加

FAPGA アジア印刷会議がフィリピン マニラにて開催され(2019 年 10 月 9～12 日) 日本のほか、米、欧 (Intergraf)、印、豪、ネパール、インドネシアの 7 か国に加えて今回から初めてカンボジアが参加した。またフィリピン最大の印刷機器展示会である Philippines Pack Plas が併催され視察を行った。今回は FAPGA 会長の改選が行われ、インドの AIFMP (All India Federation of Master Printers) の会長が次期 FAPGA 会長に選出され、今後 2 年毎に会長改選を行うことが議決された。出張報告書は日印産連ホームページに掲載。



(4) オーストラリア NPA 選考委員 並びに表彰式に於ける特別賞授与

オーストラリア シドニーで開催された同国最大の印刷機器展 Printex 2019 が開催され (2019 年 8 月 13～16 日) 開催期間中に行われた NPA (National Print Award) に於いては、日印産連として審査に参加し、特別賞を選定して表彰式にて受賞者に賞状と記念品を授与した。



(5) グレゴール・カレンダー・アワード 表彰式への出席

グレゴール・カレンダー・アワードの表彰式がドイツ シュツットガルトで開催され(2020年1月23日)日印産連が日本の受賞者の代表として出席した。シュツットガルト・グラフィック・クラブなど4団体で構成されるグレゴール・カレンダー・アワード委員会と日本印刷産業連合会では、日独双方のカレンダーコンテストで入選した作品を「ジャパンカレンダーアワード」として相互に再評価し、それぞれの受賞者を表彰して今年で45年目を迎えるが、今後もカレンダーを通じた文化交流を続けて自国のカレンダー文化を更に発展させていくことを相互に確認した。2019年12月には公益財団法人 日独協会の協力を得て、前年にドイツから送付されたカレンダーを日独協会が主催する「ドイツ クリスマスのタベ」の会場にて掲示し、ドイツの優れたカレンダー文化を在日ドイツ人並びにドイツに関わる日本人に紹介した。



(6) WPCF2020 (ムンバイ) 世界印刷会議への出席

インド最大の印刷機器展 Pamex が 2020 年 1 月に開催されることもあり、前回のロンドンから半年しか期間が開いていないものの、インドのムンバイにて WPCF 世界印刷会議が開催された(2020年1月8~10日)。日本のほか、米、欧 (Intergraf)、中、韓、印、ネパール、インドネシア、スリランカ、南アフリカの 10 国・地域が参加した。Redefining Printing – Brain storm with world leaders と題されたフォーラムにおいて、日印産連は日本代表として ”Intelligent Manufacturing” というテーマでの講演を依頼され、準会員である小森コーポレーションのインド現地法人 KOMORI India の星野社長と共に日本のスマートファクトリーに関するプレゼンテーションを行った。出張報告は日印産連ホームページに掲載。



(7) 主催 4 コンクールの開催

1) 開催概要

	第71回 全国カレンダー展	第61回 全国カタログ展	第59回 ジャパン パッケージング コンペティション	第53回 造本装幀コンクール
主 催	(一社) 日本印刷産業連合会 フジサンケイビジネスアイ	(一社) 日本印刷産業連合会 フジサンケイビジネスアイ	(一社) 日本印刷産業連合会	(一社) 日本書籍出版協会 (一社) 日本印刷産業連合会
後 援	経済産業省 文部科学省 (独) 国立印刷局 日本商工会議所 日本製紙連合会 (社) 日本マーケティング協会 全国中小企業団体中央会 協賛: 全国カレンダー出版協同 組合連合会	経済産業省 文部科学省 (独) 国立印刷局 日本商工会議所 日本製紙連合会 (公社) 日本マーケティング協会 全国中小企業団体中央会	経済産業省 (公社) 日本パッケージデザイン協会 (公社) 日本包装技術協会 (公社) 日本マーケティング協会 (一社) 日本プロモーション・マー ケティング協会 日本百貨店協会 協賛: ジャパンムック(株)/平和紙業(株)	文部科学省 経済産業省 東京都 (公社) 日本図書館協会 (公社) 読書推進運動協議会 (一社) 出版文化国際交流会 (一財) 出版文化産業振興財団
会 期 ・ 開 場	2020 年 1 月 20 日(月)～24 日(金) 東京: 東京サンケイビル B1,B2 ブリックギャラリー 1 月 28 日(火)～2 月 6 日(木) 大阪: 平和紙業ペーパーボイス	2020 年 1 月 20 日(月)～24 日(金) 東京: 東京サンケイビル B1,B2 ブリックギャラリー 2 月 25 日(火)～3 月 5 日(木) 大阪: 平和紙業ペーパーボイス	2020 年 *4 月 13 日(月)～15 日(水) 東京: 日本印刷会館 2 階 *4 月 20 日(月)～24 日(金) 大阪: 平和紙業ペーパーボイス	2019 年 10 月 25 日(金)～27 日(日) 神保町 東京堂ホール
審 査	2019 年 12 月 3 日(水) 4 日(木)	2019 年 10 月 31 日(木)	2019 年 1 月 31 日(金)	2019 年 5 月 28 日(水)
表 彰 式	2020 年 1 月 20 日 (月) 東京サンケイビル	同 左	*2020 年 4 月 14 日 (火) 東京一ツ橋・如水会館	2019 年 9 月 10 日 (火) 日比谷図書文化館
応募 数	計 522 点	計 324 点	計 194 点	計 267 点

* に関しては新型コロナウイルス感染症の影響を受けて中止



第 71 回全国カレンダー展&第 61 回全国カタログ展表彰式



第 53 回造本装幀コンクール表彰式

2) 平成 30 年度主催コンクール／受賞作品数

	授 賞 名 (順不同)	カレンダー	カタログ	J P C	造本装幀
0	内閣総理大臣賞 ¹	－	－	－	－
1	経済産業大臣賞	3	2	2	1
2	文部科学大臣賞	3	2		1
3	経済産業省製造産業局長賞			2	
4	経済産業省商務情報政策局長賞	4	2	3	
5	東京都知事賞				1
6	国立印刷局理事長賞	3	2		
7	日本商工会議所会頭賞	3	2		
8	日本製紙連合会賞	3	2		
9	日本マーケティング協会賞	3	2	1	
10	全国中小企業団体中央会会長賞	2	2		
11	日本パッケージデザイン協会			1	
12	日本包装技術協会賞			1	
13	日本プロモーション・マーケティング協会賞			1	
14	日本百貨店協会賞			1	
15	日本図書館協会賞				1
16	出版文化国際交流賞				1
17	読書推進運動協議会賞				1
18	出版文化産業振興財団賞				1
19	審査員特別賞	7	4		
20	審査員奨励				3
21	日本書籍出版協会理事長賞 (主催者)				6
22	日本印刷産業連合会会長賞 (主催者)	3	2	5	6
23	フジサンケイビジネスアイ賞 (主催者)	3	2		
24	部門賞	28	42	32	
25	奨励賞	21	0		
	受賞作品数	86	66	49	22
	応募作品数	522	324	194	267

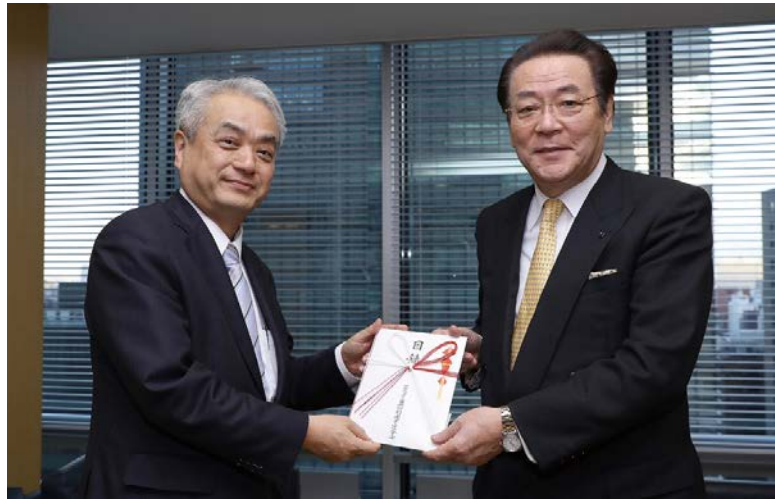
3) 応募数の推移 (10 年間の応募作品数掲載)

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
全国カレンダー展	718	756	770	714	658	625	604	586	584	522
全国カタログ展	415	469	423	388	379	374	402	373	422	324
J P C	166	164	156	151	176	166	160	163	182	194
造本装幀コンクール	384	309	315	366	334	349	332	328	325	267

¹ カレンダー展、カタログ展に於ける内閣総理大臣賞は 5 年毎に選出。前回は 2018 年で、次回は 2023 年。
JPC は経済産業大臣賞が、造本装幀コンクールは経済産業大臣賞・文部科学大臣賞・東京都知事賞が最高賞

4) 特記事項

- 「第 71 回全国カレンダー展」で受賞したカレンダーをチャリティー販売した売上金 15.1 万円と日印産連からの寄付金 34.9 万円を合わせた 50 万円を、国内外の重い心臓病に苦しむ子供を支援する「明美ちゃん基金」（産経新聞厚生文化事業団運営）に寄付した（3 月 12 日）。



産経新聞社の飯塚社長（左）に寄付金の目録を手渡す金子会長（右）

- 「グレゴール・カレンダー・アワード」は欧州最大のカレンダー展で、毎年「全国カレンダー展」の上位受賞作品がグレゴール・カレンダー・アワードに出品されている。今年は世界中から 700 点以上の作品応募がある中で、日本からの応募作品が金賞及び銀賞を受賞。またジャパンアワードに於いては、金賞 1 点、銀賞 1 点、銅賞 3 点、特別賞 1 点を受賞した。



グレゴール・カレンダー・アワード金賞受賞作品展示

- 2020 年 2 月にライプチヒ（ドイツ）で行われた『世界で最も美しい本コンクール 2020』審査会で、30 か国の応募作品 700 点以上の中から、最優秀賞の「金の活字賞」1 点、金賞 1 点、銀賞 2 点、銅賞 5 点、栄誉賞 5 点の計 14 点が受賞した。日本からの出品作品では、「造本装幀コンクール」において文部科学大臣賞を受賞した「僕らのネクロマンシー」が銅賞に選出された（写真（右）は『世界で最も美しい本コンクール』の入選作品）。
- 印刷博物館 P&P ギャラリーで 2019 年 12 月 14 日（土）～2020 年 3 月 29 日（日）に『World Book Design 2018-19』が開催され、「世界で最も美しい本コンクール」の入選図書とともに、造本装幀コンクールの受賞作品のほか 6 カ国（ドイツ、オランダ、スイス、オーストリア、カナダ、中国）のコンクール入賞図書を加えたおよそ 200 点が展示された（新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、2020 年 2 月 29 日を以て展示終了）。



- 印刷博物館 P&P ギャラリーで 2019 年 9 月 28 日（土）～12 月 8 日（日）の日程で『現代日本のパッケージ 2019』が開催された。第 58 回ジャパンパッケージングコンペティションの受賞作品のほか、「JPDA パッケージデザインインデックス 2018」と「2018 日本パッケージングコンテスト」の受賞作品も展示された。

『現代日本のパッケージ 2019』



（８）全国カレンダー出版共同組合連合会主催「JCAL2020 年(令和 2 年)版カレンダー展示会」を後援した

日本印刷産業連合会は長く日本カレンダー暦文化振興協会の理事を務めてきたことから、日本に於けるカレンダー文化の発展の助力の為、今年から初めて「JCAL2020 年版カレンダー展示会」を後援することとした。10 月 24 日（木）の午後 4 時から日本印刷会館にて「JCAL2020 年（令和 2 年）版カレンダー展示会」の開催主旨・概要に関して全国カレンダー出版協同組合連合会と合同で記者発表を行った。12 月 2 日から 4 日まで東京・有楽町の交通会館で開催された JCAL 発足後初の「一般消費者向け展示会」の初日には、専務理事の杉村亥一郎が、経産省コンテンツ産業課の富田課長補佐らと共にオープニングのテープカットにも参加した。



「JCAL2020 年（令和 2 年）版カレンダー展示会」初日テープカット

（９）技能五輪国際大会

第 45 回技能五輪国際大会（カザン）が 8 月 22 日～27 日に、ロシア連邦カザンで開催され、日本から参加の湯地龍也選手（凸版印刷株）は厳しい条件の中で健闘し、参加 15 の国と地域の中で見事第 6 位（敢闘賞）入賞を果たし、メダルを獲得した（内容は P. 14 を参照）。



第 45 回技能五輪カザン大会閉会式

（10）第 3 回「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト

応募総数 943 作品（前回 707 作品）の中から一般の部は小山薫堂最優秀賞 1 作品、小山薫堂優秀賞 2 作品、優秀賞 3 作品、佳作 5 作品、小学生の部は小山薫堂最優秀賞 1 作品、小山薫堂優秀賞 5 作品、優秀賞 3 作品、佳作 4 作品の合計 24 作品を決定した。小山薫堂 GP PR 大使出席のもと 9 月 13 日（金）にホテルニューオータニで開催された「9 月印刷の月／印刷文化典」で表彰式が敢行された（内容は P. 30 を参照）。



第 3 回「印刷と私」作文コンテスト表彰式

(1 1) その他の広報関連活動

1) 機関誌「JFPI REPORT」の発行

機関誌「JFPI REPORT」を年度4回、各2,600部作成して配布。

○第167号(2019年4月号) 32頁 発行日:4月25日

＊女性リーダーのネットワークづくり

＊じゃぱにうむ2019

○第168号(2019年7月号) 44頁 発行日:7月16日

＊第34回定時総会

＊SDGs推進プロジェクトを組織内に新設

○第169号(2019年10月号) 56頁 発行日:10月25日

＊2019年9月印刷の月「2019年印刷文化典」

＊第18回印刷産業環境優良工場表彰

＊第3回「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト審査結果と表彰

＊GP環境大賞等の表彰

○第170号(2020年1月号) 44頁 発行日:1月31日

＊年頭所感2020年

＊2020年新年交歓会

2) 協賛事業

昨年同様、教育研究会(東京都立工芸高等学校 グラフィックアート科が中心)から協力の依頼を受け、「学生グラフィックコンペ」に日印産連賞として図書券2万円を寄贈。

3) 映画「つつんで、ひらいて」の広報活動に協力

日本印刷産業連合会では長く日本書籍出版協会と「造本装幀コンクール」を共催してきたが、生涯1万5千点以上の書籍の装幀を手掛け、現在も現役で活躍する装幀者・菊地信義を追ったドキュメンタリー映画「つつんで、ひらいて」の興行的成功が、若い世代へ「ものづくりの魅力」を伝え、優秀な人材を印刷・製本業界に迎え入れて、業界の更なる発展つながると考え、監督の広瀬奈々子氏、並びにプロデューサーの北原栄治氏を迎え、2019年11月19日(火) 午後4時より日本印刷会館にて、映画「つつんで、ひらいて」の内容、見どころに関する記者発表を行った。



記者会見後にポスターを広げて写真撮影に応じる
広瀬監督(左)と北原プロデューサー(右)

4) マスコミ懇談会／記者会見の開催

□マスコミ懇談会

① 2019年 8月27日 於: 日本印刷産業連合会会議室

② 2019年 12月20日 於: 日本印刷産業連合会会議室

7 顕彰委員会

【1】概 要

本委員会は、「日印産連表彰選考委員会」「印刷産業環境優良工場選考委員会」「G P 環境大賞等選考委員会」の小委員会を招集し、選考を委嘱する委員会である。

委 員 会 名	開催回数	実 施 内 容
顕彰委員会 (ステアリング・コミッティ)	3 回	＊日印産連表彰 ＊印刷産業環境優良工場表彰 ＊G P 環境大賞等 (G P 環境大賞・G P マーク普及大賞・G P 資機材環境大賞)
① 日印産連表彰選考委員会	1 回	
② 印刷産業環境優良工場表彰選考委員会	1 回	
③ 印刷産業環境優良工場表彰審査委員会	7 回	
④ G P 環境大賞等選考委員会	1 回	

【2】委員名簿

顕彰委員会(計10名)

(敬称略、◎ は委員長)

連合会役職	所 属 団 体		氏 名	会 社 名
	団体名	役 職		
◎副会長	印 刷 工 業 会	副 会 長	浅野 健	(株)金羊社
副会長	全 印 工 連	会 長	臼田 真人	(株)アドピア
副会長	フ ォ ー ム 工 連	会 長	櫻井 醜	トッパン・フォームズ(株)
常任理事	ジ ャ グ ラ	会 長	中村 耀	N S 印刷製本(株)
常任理事	全 日 本 製 本	会 長	田中 真文	(株)田中紙工
常任理事	G C J	会 長	田村 壽孝	(株)東京ニュース
常任理事	全 日 本 シ ー ル	会 長	田中 祐	山王テクノーツ(株)
常任理事	全 国 グ ラ ビ ア	会 長	田口 薫	大日本パッケージ(株)
常任理事 (新任)	全 日 本 ス ク リ ー ン	会 長	内藤 正和	内藤プロセス(株)
常任理事	全 日 本 光 沢	会 長	鶴田 和也	宏和樹脂工業(株)

【3】主な実施内容

- | | |
|-----------------------|-------------------------------------|
| (1) 日印産連表彰選考委員会 | 開催日：7/31 |
| (2) 印刷産業環境優良工場表彰選考委員会 | 開催日：7/18 |
| (3) 印刷産業環境優良工場表彰審査委員会 | 開催日：10/29 11/26 2020,1/15 2/12 3/17 |
| (4) G P 環境大賞等選考委員会 | 開催日：7/18 |